

令和6年度 第1回 岩手県企業局経営評価委員会

令和6年7月9日（火）14:00～15:30

岩手教育会館カンファレンスルーム 200

次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ（中里企業局長）
- 3 議 事
 - (1) 令和5年度決算概要について
 - (2) 令和5年度経営実績の評価について
 - (3) 第1期中期経営計画期間の評価について
 - (4) その他
- 4 閉 会

配付資料

- 資料1 令和5年度経営評価の総括（実績）
- 資料2 令和5年度経営評価総括表（実績）
- 資料3 第1期中期経営計画期間（R2～R5）評価の総括
- 資料4 第1期中期経営計画期間（R2～R5）経営評価総括表
- 参考資料1 令和5年度決算概要
- 参考資料2 令和5年度取組内容一覧表
- 参考資料3 長期経営方針期間の収益と費用の推移

令和6年度 第1回 岩手県企業局経営評価委員会 出席者名簿

委員長	一関工業高等専門学校	あかし ながゆき 明石 尚之	
委員	いわぎんリサーチ&コンサルティング株式会社	あべ えいこ 阿部 瑛子	
〃	岩手県立大学総合政策学部	いずみ けいこ 泉 桂子	
〃	早稲田大学水循環システム研究所 株式会社群馬東部水道サービス	なみかわ すずむ 濤川 進	
〃	盛岡ガス株式会社	まつかわ けん 松川 顕	
企業局	局長	なかさと ひろみ 中里 裕美	
〃	技監兼技師長	むらかみ としひろ 村上 敏弘	
〃	次長兼経営総務室長	あさぬま たまき 浅沼 玉樹	
〃 (経営総務室)	特命参事兼管理課長	まつもと さとる 松本 哲	
〃	予算経理担当課長	ささき のぞみ 佐々木 のぞみ	
〃 (業務課)	総括課長	いとう たかゆき 伊藤 隆行	
〃	事業担当課長	すがわら ひであき 菅原 英明	
〃	電気課長	み お ともあき 三尾 友明	
〃	土木・施設担当課長	こにし たつや 小西 達哉	
〃 (施設総合管理所)	施設総合管理所長	たかはし ひろし 高橋 浩	
〃 (県南施設管理所)	県南施設管理所長	むろつき あつし 室月 敦	
事務局	経営総務室 経営企画課長	しらい たかあき 白井 孝明	
〃	経営総務室 経営企画担当 主任主査	きくち ともや 菊池 智也	
〃	経営総務室 経営企画担当 主査	ひがしの じゅん 東野 淳	
〃	経営総務室 経営企画担当 主任	たかむら たくみ 高村 匠	
〃	経営総務室 経営企画担当 主任	かわぐち たくみ 川口 拓実	欠席

(委員 50 音順 敬称略)

出席者数 20 名

令和6年度 第1回 岩手県企業局経営評価委員会 タイムスケジュール

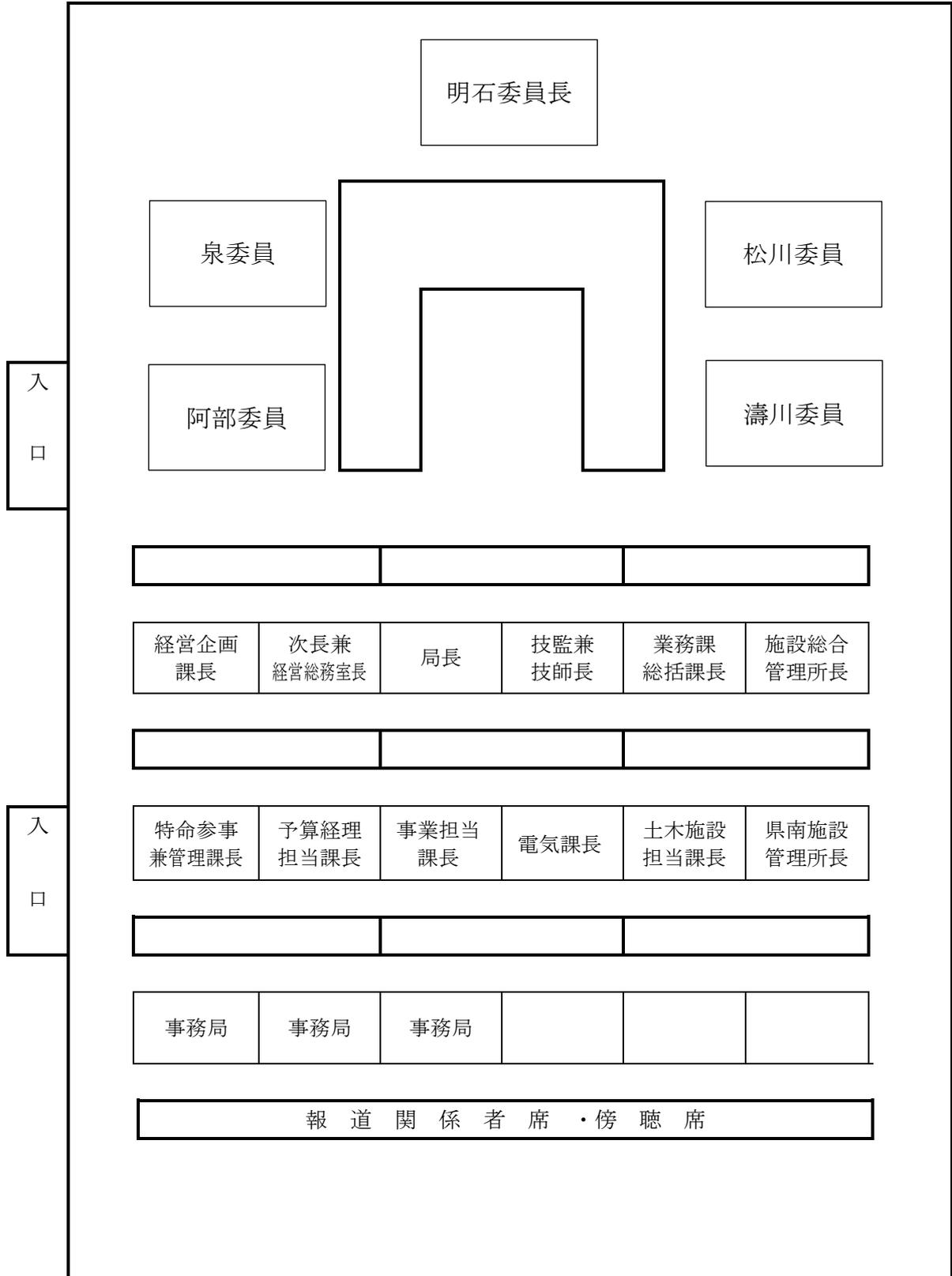
令和6年7月9日(火) 14:00 ~ 15:30

内 容	予定時間	備考
1 開 会 2 挨 拶	14:00 ~ 14:05	
3 議 事	14:10 ~ 15:25	
4 閉 会	15:25 ~ 15:30	

令和6年度 第1回 岩手県企業局経営評価委員会 座席表

令和6年7月9日（火）14:00～15:30

岩手教育会館カンファレンスルーム 200



令和5年度 経営評価の総括（実績）

1 電気事業

経営目標については、出水率や風況、日射量が総じて好調だったことなどから、供給電力量及び経常収支比率の目標を達成しました。

【主な成果等】

- (1) 「運転年数 100 年」を実現するための基盤づくりに向け、概ね計画どおり工事等を進めました。また、IoT 技術の活用に向けた基盤インフラとして **6 発電施設に光回線を敷設**したほか、**ドローンを使用した水圧鉄管の点検を**試行しました。
- (2) 水力発電所の新規開発に向け、**4 地点の開発可能性調査、4 地点の概略設計**を実施しました。また、入畑・胆沢第二発電所の再開発事業は、各工事の工程を調整しつつ、それぞれ令和7年度及び令和8年度の営業運転開始に向けて工事を進めました。
- (3) 適正な収入の確保に向け、**非 FIT 水力発電所の令和6～8年度の電力供給先を選定するプロポーザル**を実施し、3件の契約を締結しました。

また、供給電力量の増加に向け、仙人発電所で実施した大規模改良工事においてより**効率の高い水車ランナに更新**したため、発電電力量が2.7%向上する見込みであるほか、昨年度に引き続き、四十四田発電所及び御所発電所において、ダム管理者である国土交通省と共同で、**洪水後期の放流を有効に活用する取組**を試行しました。

指標一覧

(1) 「運転年数 100 年」を実現するための基盤づくり		R5目標値	実績	達成度
経営目標	供給電力量(百万 kWh)	577	<u>595</u>	A
	発電所建屋等の耐震化率(%)	100	100	A
	電力土木施設の耐震診断進捗率(%)	100	97	B
取組内容	成果状況：11 項目中 A 8 項目(73%) B 3 項目(27%) C なし			
(2) 再生可能エネルギーの維持拡大		R5目標値	実績	達成度
経営目標	新規開発・再開発による供給電力量(千 kWh)	12,699	<u>10,361</u>	B
取組内容	成果状況：5 項目中 A 4 項目(80%) B 1 項目(20%) C なし			
(3) 経営環境の変化に対応した安定経営		R5目標値	実績	達成度
経営目標	経常収支比率(%)	124	<u>128</u>	<u>A</u>
取組内容	成果状況：6 項目中 A 6 項目(100%) B なし C なし			

注) 経営目標達成度：実績値 / 目標値 × 100 A：100%以上、B：80%以上 100%未満、C：60%以上 80%未満、D：60%未満

注) 取組内容成果状況 A：取組が完了できる見込み B：(複数の取組目標を設定している場合)A 判定のもの C 判定のものが両方ある場合
C：取組完了が困難な見込み

【主な課題と今後の対応】

「温室効果ガス排出量 2050 年実質ゼロ」に貢献するため、**新規水力発電所の開発及び既存水力発電所の出力アップ**に向けた調査検討を進めていきます。

令和5年度に策定した**スマート保安導入計画**に基づき、各種**ドローンやAI・IoT**を活用した**維持管理の高度化及び効率化**を進めていきます。

四十四田発電所取水塔の耐震診断については、関係事業者と調整しつつ、実施時期を検討していきます。

2 工業用水道事業

維持管理要領に基づく点検及び作業を計画的に実施しており、**安定供給を継続**しましたが、**契約水量が第1期中期経営計画策定時の計画値に至らず、経常収支比率は目標を下回りました。**また、新たな水需要への対応として整備を進めてきた**新北上浄水場建設事業の第一期建設工事が完成し、令和5年4月から一部給水を開始**しました。

【主な成果等】

- (1) 良質な工業用水の安定供給に向け、**水質異常時の対応訓練**を実施したほか、**油流出事故の防止に向けた普及啓発活動等**を実施しました。また、保守管理の省力化や充実に向け、**スマートメーター及び管路漏水監視システム**の調査検討を行いました。
- (2) 新たな水需要への対応として、**新北上浄水場建設事業の第二期建設工事に着手し、施設整備を進め**ました。
- (3) 安定的な事業運営に向け、**ユーザーの工業用水道需要量の調査を実施**したほか、長期的な収支を考慮しつつ、令和5年度版の年度別事業実施計画を策定しました。

指標一覧

(1) 良質な工業用水の安定供給		R5目標値	実績	達成度
経営目標	供給停止件数(件/年)	0	0	A
取組内容	成果状況：5項目中 A 4項目(80%) B 1項目(20%) C なし			
(2) 新たな水需要への対応				
取組内容	成果状況：1項目中 A 1項目(100%) B なし C なし		※経営目標・参考指標設定なし	
(3) 安定的な事業運営		R5目標値	実績	達成度
経営目標	経常収支比率(%)	69	64	B
取組内容	成果状況：5項目中 A 4項目(80%) B なし C 1項目(20%)			

注) 経営目標達成度：実績値 / 目標値 × 100 A：100%以上、B：80%以上 100%未満、C：60%以上 80%未満、D：60%未満

※供給停止件数については、目標値を達成した場合はA、達成しなかった場合はD

注) 取組内容成果状況 A：取組が完了できる見込み B：(複数の取組目標を設定している場合)A 判定のものと C 判定のものが両方ある場合 C：取組完了が困難な見込み

【主な課題と今後の対応】

水需要に合わせて計画的に供給能力を確保する必要があるため、新北上浄水場第二期建設工事の工程管理を着実に実施していきます。

物価高騰の影響などによる**ユーザー企業の実使用水量の動向を注視**するとともに、関係部局と連携し、**新規立地企業の情報収集や給水に向けた対応**を行っていきます。また、水需要に応じて**金ヶ崎ろ過施設のダウンサイジングを進めつつ、建設改良事業に国庫補助金を活用**するなど、**安定的な事業運営に向けた取組を推進**していきます。

スマートメーターの試験的な導入に向けて調整を進めるなど、保守管理の高度化及び業務の効率化に取り組んでいきます。

3 組織力向上と地域貢献

資格について、第二種電気主任技術者の新規資格取得者数は、第1期中期経営計画期間の累計で9名となり経営目標を達成しました。地域貢献による温室効果ガス削減量は、全国植樹祭で使用する苗木の購入を支援したことなどにより、経営目標を達成しました。

【主な成果等】

(1) 組織力向上を図るため、新たな施設の供用開始等に併せて職員を増員したほか、計画的な職員採用に向けたリクルート活動を実施しました。職場環境の充実に向け、無線LAN アクセスポイントの設置や健康相談会の実施といった企業局働き方改革ロードマップに基づく取組を進めました。

また、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い令和2年度以降開催を見送っていた施設見学会を開催したほか、テレビ番組やコマーシャルなどのマスメディアを活用し、企業局事業の理解促進活動に取り組みました。

(2) 電力供給を通じた地域貢献として、「いわて復興パワー」による電気料金の割引や「いわて復興パワー水カプレミアム」及び「アマリングリーンでんき」を通じたCO₂フリー電力の供給に引き続き取り組みました。なお、いわて復興パワーはエネルギー価格の高騰を受け、県内の多くの事業者様から申込みをいただき、令和5年4月10日をもって募集上限に達したことから、新規の受付を停止しました。そのほか、電気事業会計の過年度利益剰余金の積立金から県の施策に対し約12億円の財政支援、医療局に対し30億円の貸付を行いました。

また、水源涵養の促進及び環境保全を目的とした15件の植樹活動に対し、苗木提供等の支援を実施したほか、令和5年6月に開催された全国植樹祭において、3,112本の苗木の購入を支援しました。

指標一覧

(1) 組織力向上		R5目標値	実績	達成度
経営目標	第二種電気主任技術者 新規資格取得者数 (人)	5	9	A
	第一種ダム水路主任技術者 新規資格取得者数 (人)	2	1	D
取組内容	成果状況：11項目中 A 9項目(82%) B 2項目(18%) C なし			

注) 経営目標は計画期間(R2～R5)の累計値

(2) 地域貢献		R5目標値	実績	達成度
経営目標	地域貢献事業による温室効果ガス削減量(t以上/年)	120以上	272	A
取組内容	成果状況：6項目中 A 6項目(100%) B なし C なし			

注) 経営目標達成度：実績値 / 目標値 × 100 A：100%以上、B：80%以上 100%未満、C：60%以上 80%未満、D：60%未満

注) 取組内容成果状況 A：取組が完了できる見込み B：(複数の取組目標を設定している場合)A 判定のものと C 判定のものが両方ある場合 C：取組完了が困難な見込み

【課題と今後の対応】

第二種電気主任技術者や第一種ダム水路主任技術者の資格取得に向けて、局内の支援・奨励による取得者数の更なる確保・育成を目指します。

令和7年度に企業局設立70周年を迎えることから、記念事業の実施に向けた検討を進めていきます。また、新たに電力供給契約を締結した小売電気事業者と連携し、電力供給を通じた地域貢献に取り組んでいきます。

※下線部は令和5年度第3回経営評価委員会（R6.2.6）からの変更箇所

1 電気事業

（取組の方向性）（1）「運転年数100年」を実現するための基盤づくり

（1）経営目標、参考指標の状況

経営目標		1/4	2/4	上半期	3/4	4/4	年間	達成度
供給電力量(百万 kWh)	計画	222	131	353	96	128	577	A
	実績	200	156	356	<u>102</u>	<u>137</u>	<u>595</u>	
	達成率	90	119	101	<u>106</u>	<u>107</u>	<u>103</u>	
発電所建屋等の耐震化率(%)	計画	100	100	100	100	100	100	A
	実績	100	100	100	100	100	100	
電力土木施設の耐震診断進捗率(%)	計画	95	95	95	95	100	100	B
	実績	92	92	92	92	97	97	

注) 達成度：実績値 / 目標値 × 100 A：100%以上、B：80%以上100%未満、C：60%以上80%未満、D：60%未満

参考指標 (H22-30 平均)	参考値	1/4	2/4	上半期	3/4	4/4	年間
[参考]水力発電所の供給停止件数(件/年)	3	1	1	2	1	0	3
[参考] 〃 の供給停止時間(時間/年)	68	258*	0	259	1	0	259
[参考] 〃 の供給停止電力量(百万 kWh/年)	0.055	3.974*	0	3.974	0.003	0	3.977

※ 令和4年度に発生した供給停止が令和5年4月11日まで継続していたため、その停止時間及び電力量を加算しています。

【特記事項】

- ① 水力、風力及び太陽光の合計の供給電力量は、出水率や日射量が総じて好調であったことなどから **595百万 kWh**、達成率は **103%**と目標を達成しました。
 - 1) 水力発電の供給電力量は 103%と計画値を上回りました。
 - 2) 風力発電の供給電力量は 104%と計画値を上回りました。
 - 3) 太陽光発電の供給電力量は 126%と計画値を上回りました。
 - 4) 供給停止は、岩洞第二発電所、御所発電所及び北ノ又発電所において計3件発生しました。

- ② 電力土木施設の耐震化推進に向け、岩洞第一発電所未崎川取水堰堤と胆沢第二発電所水圧管路の **2施設の耐震診断を実施**しました。なお、電力土木施設の耐震診断進捗率は、国土交通省が進めている北上川上流ダム再生事業（四十四田ダム嵩上げ）の影響を受けることから、令和4年度に実施予定であった四十四田発電所取水塔の耐震診断を見送ったため、**97%**にとどまりました。

令和5年度 経営評価総括表（実績）

(2) 取組内容の達成状況

取組内容			進捗	成果	取組内容			進捗	成果
①	ア	年度別事業実施計画に基づく修繕・改良等の実施	△	B	③	ア	新技術の導入	△	B
	イ	電力土木施設等長寿命化対策	△	B		イ	発電所遠方監視制御装置のIP化	△	A
	ウ	耐震化計画の推進	△	A	④	ア	農業用水の安定供給に向けた機能維持	△	A
②	ア	適切な保守作業の実施	△	A		イ	河川管理者等との連携	△	A
	イ	風水害への備え	△	A		ウ	発電所共同運転事業者との連携	△	A
	ウ	マニュアル等の見直し	△	A					

注) 進捗状況 a: 取組が完了できる見込み b: (複数の取組目標を設定している場合)a判定のものc判定のものが両方ある場合
c: 取組完了が困難な見込み

注) 成果状況 A: 目標とした成果を達成した B: (複数の取組目標を設定している場合)A判定のものc判定のものが両方ある場合
C: 目標とした成果を達成できなかった

【特記事項】

① 施設の強靱化及び大規模災害への備え

1) 年度別事業実施計画に基づき、修繕・改良工事等を進めました。

- ・仙人発電所水車発電機分解点検補修・大規模改良工事 (R3~R5) : R6.3 完成
- ・松川発電所水車発電機分解点検補修等工事(R4~R6) : 機器設計中 (R7.3 完成見込み)
- ・北ノ又発電所配電盤及び33kVキュービクルほか更新工事(R3~R5) : 工期延長 (保護リレー追加、R7.3 完成見込み)
- ・北ノ又第二発電所33kV連絡線更新工事 (R3~R5) : R6.3 完成
- ・岩洞第一発電所水車発電機分解点検補修及び配電盤更新工事 (R5~R11) : R6.2 契約済み
- ・岩洞第二発電所水車発電機分解点検補修及び配電盤更新工事 (R5~R7) : R5.12 契約済み
- ・早池峰発電所水車発電機分解点検補修及び配電盤更新工事 (R5~R8) : R6.3 契約済み

2) 電力土木施設等の長寿命化対策に向け、以下の工事等を進めました。

- ・松川発電所焼切川取水堰堤補修工事：新たな損傷箇所が発見されたため、施工内容・発注時期再検討し、令和6年度に工事を実施することになりました。
- ・松川発電所護岸補修工事設計業務委託 : R6.3 完了

3) 電力土木施設の長寿命化に関する検討会議において、北上川上流ダム再生事業 (四十四田ダム嵩上げ) の進捗状況や共同事業者との協議を踏まえ、四十四田発電所取水塔及び仙人発電所取水塔の耐震化計画を見直しました。

4) 電力土木施設の耐震化に向け、以下の工事を実施しました。

- ・岩洞第一発電所軽松沢鉄管橋耐震化対策工事 : R5.11 完成
- ・岩洞第二発電所濁川サイフォン耐震化対策工事 (R5~R6) : 工場製作 (R7.3 完成見込み)

② 適切な保守管理

1) 年間作業停止計画表に従い、発電所の定期点検作業等を実施しました。なお、作業の安全性等の確認のため、計4回の電気主任技術者による保安パトロールを実施しました。

2) 年間スケジュールに基づき、工事等に伴う河川法手続き及び協議を随時実施しました。また、令和6年度に実施予定の工事等について事前相談を実施し、結果を各事業所に通知しました。

3) 風水害への備えとして進めてきた北ノ又第二発電所地すべり対策復旧工事が令和5年8月に完成しました。

また、発電施設における自然災害の危険箇所追加調査を実施し、北ノ又、北ノ又第二、北ノ又第三、仙人、入畑の5施設について調査結果を取りまとめ、各事業所へ情報共有しました。

③ 新技術の導入

1) IoT技術の活用については、様々なデータを収集し活用するための基盤インフラとして、6発電施設へ光回線を敷設しました。

- 2) ドローンの活用による保守業務の効率化の可能性について検討するため、北ノ又発電所及び北ノ又第二発電所にて鉄管ドローンを使用した点検を試行し、有効性が確認できたので、令和6年度より内部点検で本格導入することとしました。
 - 3) これまで実施した調査及び実証の結果を基に、令和6年3月に新技術導入ロードマップであるスマート保安導入計画を策定しました。
 - 4) 北ノ又第三発電所に導入する予定であった遠隔監視装置は、想定よりも費用が高額であったことから、実施時期を再検討することとしました。
- ④ 農業用水の安定供給、共同事業者との連携
- 1) 岩洞ダム共有施設の改良工事（国営岩手山麓農業水利事業）は、随時、工事進捗状況などを確認するとともに、**令和7年度の完成に向け、岩手山麓農業水利事業所と工程等の協議を行いながら計画的に工事を進めています。**
 - 2) 北上川上流ダム再生事業における令和5年度の調査内容及び今後の予定について、北上川ダム統合管理事務所と情報交換を行いました。
 - 3) 湯田ダムの共同利水事業者3者（企業局、東北自然エネルギー株式会社、岩手中部土地改良区）による、**和賀川河川環境保全事業として、アユの稚魚放流を実施**しました。また、**和賀川の河川環境調査を実施**し、魚類の生育環境の状況を環境保全連絡会（国、県、市、漁協、土地改良区、発電所共同運転事業者）に報告しました。さらに、令和6年度に実施する湯田ダム共同取水口定期点検等の実施に向け、関係機関と湯田ダム水位運用や和賀川の河川環境の保全について情報交換を行いました。

(3) 主な課題と今後の対応

- ① 施設の強靱化及び大規模災害への備え
- 1) 修繕・改良工事については、引き続き、年度別事業実施計画に基づき進めていきます。
 - 2) 四十四田発電所取水塔の耐震診断については、北上川上流ダム再生事業（四十四田ダム嵩上げ）の詳細が決定した後、実施時期を検討していきます。また、仙人発電所取水塔の耐震診断については、令和6年度の発注に向け準備を進めます。
- ② 適切な保守管理
- 1) 工事等のスケジュールに合わせて河川法手続きを適宜進めます。
 - 2) 機器の点検作業後に部品を元の状態に戻し忘れたことなどによって運転に支障が生じた事例があったため、再発防止策を作成・周知します。
- ③ 新技術の導入
- 1) 令和6年3月に策定したスマート保安導入計画に基づき、**AI・IoTを活用した維持管理の高度化**を進めていきます。
 - 2) 各種ドローンを活用した点検の試行結果を踏まえ、**令和7年度からの本格導入に向けて検討**を進めます。
- ④ 農業用水の安定供給、共同事業者との連携
- 1) 令和6年度に予定している湯田ダム共同取水口定期点検作業の円滑な実施に向け、和賀川河川環境保全連絡会において、計画等の情報共有を図るほか、和賀川の魚類の生育環境の状況を調査し、和賀川河川環境保全連絡会（国、県、市、漁協、土地改良区、発電所共同運転事業者）に報告します。
 - 2) 岩洞ダム共有施設の改良工事は、引き続き、岩手山麓農業水利事業所と工事の進捗状況等について協議・調整を行い、令和7年度の完成を目指します。

令和5年度 経営評価総括表（実績）

1 電気事業

（取組の方向性）（2）再生可能エネルギーの維持拡大

（1）経営目標、参考指標の状況

経営目標		1/4	2/4	上半期	3/4	4/4	年間	達成度
新規開発・再開発による 供給電力量(千 kWh)	計画	3,573	3,344	6,917	3,189	2,593	12,699	B
	実績	3,069	2,504	5,572	2,687	2,102	10,361	

注) 達成度：実績値 / 目標値 × 100 A：100%以上、B：80%以上 100%未満、C：60%以上 80%未満、D：60%未満

【特記事項】

稲庭高原風力発電所（R4.7 運転開始）の供給電力量は概ね計画通りとなりましたが、築川発電所（R3.7 運転開始）は出水率が低く、供給電力量が計画を下回ったことから目標を達成できませんでした。

（2）取組内容の達成状況

取組内容				進捗	成果	取組内容				進捗	成果
①	イ-1	新規開発に向けた調査等(水力発電)		△	A	②	ア	胆沢第二発電所の再開発		△	B
	イ-2	新規開発に向けた調査等(水力発電以外)		△	A		イ	入畑発電所の再開発		△	A
							エ	再開発の検討		△	A

注) 進捗状況 a：取組が完了できる見込み b：(複数の取組目標を設定している場合)a判定のものt c判定のものが両方ある場合

c：取組完了が困難な見込み

注) 成果状況 A：目標とした成果を達成した B：(複数の取組目標を設定している場合)A判定のものt C判定のものが両方ある場合

C：目標とした成果を達成できなかった

【特記事項】

① 新規開発の推進

- 水力発電所の新規開発に向け、**4地点の開発可能性調査及び4地点の概略設計を実施しました。**また、南本内地点ほか2地点において河川流量調査を行いました。
- 新たな電源開発の機運醸成を図ることを目的とした局内研修会を開催しました。

② 再開発の推進

- 入畑発電所再開発事業**（令和7年度運転再開予定）は、令和5年9月5日に運転を停止し、**既設水車発電機等の撤去工事及び水車発電機基礎の改修を進めました。**
- 胆沢第二発電所再開発事業**（令和8年度運転再開予定）は、**水圧鉄管の製作を進めているほか、代替放流設備設置工事が令和6年3月に完成し、令和6年度からの農業用水の供給準備が整いました。**なお、発電所建屋改修工事は令和5年度に着手する予定でしたが、他工事と工程を調整し、令和7年度に着手することとしました。
- 脱炭素社会の実現に向けた更なる取組として、企業局内に設置している特定課題検討グループにおいて、発電未利用水などを活用した**既存発電所の出力アップ**に向け、**ポテンシャルの整理を実施しました。**

（3）主な課題と今後の対応

① 新規開発の推進

「温室効果ガス排出量 2050 年実質ゼロ」に貢献するため、可能性調査及び概略設計を進め、**新規開発地点を精査し事業化に向けた調査検討を進めます。**

② 再開発の推進-

- 入畑発電所再開発事業は、令和7年度の運転再開に向けて、引き続き現地工事を進めていきます。
- 胆沢第二発電所再開発事業は、多数の関連工事の工程調整を図りながら、令和8年度の運転再開に向けて、事業を進めていきます。
- 既存発電所の出力アップは、引き続きポテンシャルの整理や送電線接続等の調査を進め、有望な施設は実現に向けた取組を進めていきます。

令和5年度 経営評価総括表（実績）

1 電気事業

（取組の方向性）（3）経営環境の変化に対応した安定経営

（1）経営目標、参考指標の状況

経営目標	目標(%)	実績(%)	達成度
経常収支比率	124	128	A

注) 達成度：実績値 / 目標値 × 100 A：100%以上、B：80%以上100%未満、C：60%以上80%未満、D：60%未満

【特記事項】

水力発電における出水率が好調であったことなどから、電力料収入が増となったことにより、**経常収支比率は128%と目標を達成**しました。

（2）取組内容の達成状況

取組内容		進捗	成果	取組内容		進捗	成果
①	ア 適正な売電価格の確保	△	A	②	ア 業務の効率化	△	A
	イ 供給電力量の向上に向けた取組	△	A		イ 経費の平準化	△	A
	ウ 地域新電力との協働・連携	△	A	③	ア 電力の新たな付加価値に関する情報収集等	△	A

注) 進捗状況 a：取組が完了できる見込み b：(複数の取組目標を設定している場合)a判定のものとc判定のものが両方ある場合
c：取組完了が困難な見込み

注) 成果状況 A：目標とした成果を達成した B：(複数の取組目標を設定している場合)A判定のものとC判定のものが両方ある場合
C：目標とした成果を達成できなかった

【特記事項】

① 適正な収入の確保

- 電力供給契約に基づき、毎月の電力量認定及び契約先への非FIT電源非化石証書の受渡しを適切に行っています。
- 非FIT水力発電所の令和6～8年度の電力供給先を選定するプロポーザル**として、岩洞第一発電所など10か所、滝発電所及び早池峰発電所の電力供給先を公募した結果、岩洞第一発電所など10か所は東北電力株式会社・東北電力フロンティア株式会社グループ、滝発電所は久慈地域エネルギー株式会社、早池峰発電所は一般社団法人東北自動車産業グリーンエネルギー普及協会と契約を締結しました。
- 令和9年度分の容量市場メインオークションに応札し、全ての容量が約定しました。
- 供給電力量の増加に向け、仙人発電所1、2号水車発電機分解点検補修及び大規模改良工事（R3～R5）において、**より効率の高い水車ランナに更新したため**、発電電力量が2.7%向上する見込みです。また、四十四田発電所及び御所発電所において、ダムの管理者である国土交通省と共同で**洪水後期の放流を有効に活用する取組を**試行しました。
- 電力土木施設の長寿命化に関する検討会議において、**長期の発電停止を必要とする導水路内部点検周期の延長等についてとりまとめ**ました。

② 経営の効率化

収支の平準化に向けて、令和5年度版の年度別事業実施計画（10か年計画）を策定しました。

③ 電力の新たな付加価値の検討

公営電気事業経営者会議を通じ、電気事業制度の改正に係る情報収集を行ったほか、他道府県の電力供給契約に関する情報収集及び分析を行いました。

（3）主な課題と今後の対応

① 適正な収入の確保

- 非FIT水力発電所の令和6～8年度の電力供給契約について、プロポーザルでの提案事項の実現化や、令和6年4月に導入された発電側課金[※]への対応などを進めます。
- 令和9年度分の容量市場メインオークションの落札結果に基づき契約手続きを進めます。

※発電側課金：これまで、電力系統の維持・拡充に必要な費用は小売事業者が全て負担していたが、電力系統の効率的な利用、再生可能エネルギーの導入拡大に向けた電力系統の増強を効率的かつ確実に行うため、令和6年4月から発電事業者が一部負担をするもの。

令和5年度 経営評価総括表（実績）

2 工業用水道事業

（取組の方向性）（1）良質な工業用水の安定供給

（1）経営目標、参考指標の状況

経営目標		1/4	2/4	上半期	3/4	4/4	年間	達成度
供給停止件数(件)	計画	0	0	0	0	0	0	A
	実績	0	0	0	0	0	0	

注) 供給停止件数については、目標値を達成した場合はA、達成しなかった場合はD

参考指標（H22-30 平均）	参考値	1/4	2/4	上半期	3/4	4/4	年平均
[参考]工業用水の濁度(度)	0.6	0.4	0.4	0.4	0.3	<u>0.3</u>	<u>0.3</u>
[参考]工業用水の水素イオン濃度(pH)	7.0	7.04	7.08	7.06	7.07	<u>7.04</u>	7.06

【特記事項】

なし

（2）取組内容の達成状況

取組内容		進捗	成果	取組内容		進捗	成果
①	オ その他修繕・改良工事等	/	B	③	新技術導入の検討	/	A
②	ア 適切な保守作業の実施	/	A				
	イ 適切な水質管理の実施	/	A				
	ウ トラブル発生時の対応	/	A				

注) 進捗状況 a：取組が完了できる見込み b：(複数の取組目標を設定している場合)a判定のものとc判定のものが両方ある場合
c：取組完了が困難な見込み

注) 成果状況 A：目標とした成果を達成した B：(複数の取組目標を設定している場合)A判定のものとC判定のものが両方ある場合
C：目標とした成果を達成できなかった

【特記事項】

① 施設の強靱化及び大規模災害への備え

年度別事業実施計画に基づき、概ね計画どおりに進めました。

- ・北上ろ過施設ろ過器弁類補修工事：R6.3 完成
- ・第一浄水場配水管更新設計業務委託：R6.3 完了
- ・第三浄水場汚泥濃縮槽自動スクリーン更新工事：R6.3 完成
- ・北上ろ過施設配水管盛替工事：大手半導体企業の工場用地造成に伴う市道の払下手続が調わず取り止め

② 適切な保守管理の実施

- 1) 維持管理要領に基づき計画的な点検及び作業を実施しました。
- 2) 関係機関へ啓発物品配布や市広報紙への掲載など、**油流出事故の防止に向けた活動を実施**しました。
- 3) **水質異常時の対応訓練等を実施**しました。

③ 新技術の導入

- 1) 空中ドローンを使用し、金ヶ崎ろ過施設の建屋年次点検を実施しました。
- 2) 職員を対象に実施したアンケート調査の結果、導入ニーズが高かったスマートメーター及び管路漏水監視システムについて、調査検討を行いました。

(3) 主な課題と今後の対応

① 施設の強靱化及び大規模災害への備え

工事・委託業務が計画どおりに完了するよう、適切な時期の発注、工期の確保及び工程管理に努めていきます。

② 適切な保守管理の実施

1) 改修工事等を踏まえ、必要に応じて工業用水道施設維持管理要領の見直しを進めます。

2) 良質な工業用水の安定供給に向け、引き続き油流出事故防止に向けた普及啓発活動やトラブル対応訓練を実施します。

③ 新技術の活用

1) ドローンを活用した建設工事現場の進捗管理（写真撮影）や、施設・設備の年次点検を引き続き実施します。

2) スマートメーターについて費用対効果等を検討した結果、コストに見合うメリットが見込まれることから、保守管理の高度化及び業務の効率化を目的として、令和6年度以降の試験的な導入に向けて調整を進めます。

2 工業用水道事業

（取組の方向性）（2）新たな水需要への対応

（1）経営目標、参考指標の状況

設定なし

（2）取組内容の達成状況

取組内容	進捗	成果
施設・設備の整備	／	A

注) 進捗状況 a：取組が完了できる見込み b：(複数の取組目標を設定している場合)a判定のものとc判定のものが両方ある場合
c：取組完了が困難な見込み

注) 成果状況 A：目標とした成果を達成した B：(複数の取組目標を設定している場合)A判定のものとC判定のものが両方ある場合
C：目標とした成果を達成できなかった

【特記事項】

新北上浄水場の整備については、**第一期建設工事が完了し、令和5年4月から一部給水を開始**しました。また、新たな水需要に対応するため、**第二期建設工事に着手**しています。

- ・新北上浄水場建設土木（第二期）工事（R5～R7）：現地施工中（R7.6 完成見込み）
- ・新北上浄水場建設機械設備（第二期）工事（R5～R8）：機器設計中（R9.3 完成見込み）
- ・新北上浄水場建設電気設備（第二期）工事（R5～R8）：機器設計中（R9.3 完成見込み）

（3）主な課題と今後の対応

新北上浄水場建設（第二期）工事の工程管理を着実に実施し、ユーザー企業の水需要に合わせて計画的に供給能力を確保していきます。

令和5年度 経営評価総括表（実績）

2 工業用水道事業

（取組の方向性）（3）安定的な事業運営

（1）経営目標、参考指標の状況

経営目標	目標(%)	実績(%)	達成度
経常収支比率	69	64	B

注) 達成度：実績値 / 目標値 × 100 A：100%以上、B：80%以上100%未満、C：60%以上80%未満、D：60%未満

【特記事項】

契約水量が第1期中期経営計画策定時の計画値に至らず、経常収益が計画を下回ったため経常収支比率は**64%**と**目標を達成することができませんでした。**

（2）取組内容の達成状況

取組内容		進捗	成果	取組内容		進捗	成果
①	ア 業務の効率化	△	A	②	ア 契約水量の維持・増量に向けた取組	△	A
	イ 経費の平準化	△	A		イ 改良費に対する補助金や公営企業債の要望	△	A
	ウ 効率的な経営のあり方についての検討	△	C				

注) 進捗状況 a：取組が完了できる見込み b：(複数の取組目標を設定している場合)a判定のものとc判定のものが両方ある場合
c：取組完了が困難な見込み

注) 成果状況 A：目標とした成果を達成した B：(複数の取組目標を設定している場合)A判定のものとC判定のものが両方ある場合
C：目標とした成果を達成できなかった

【特記事項】

① 経営の効率化

- 1) 複数施設の委託業務等を合冊発注し、業務の効率化と経費節減を図りました。
- 2) 長期的な収支を考慮しつつ、令和5年度版の年度別事業実施計画を策定しました。
- 3) 全ユーザー企業に対し、**将来の工業用水道需要量調査を実施**しました。
- 4) 金ヶ崎ろ過施設のダウンサイジングに向けた配水池増設工事は、資材高騰などの社会状況の変化を受けて、施工方法と工程の見直しを行いました。

② 適切な収入の確保

- 1) 1件の給水申込みと1件の契約水量の増量申込みに対応しました。
- 2) 工業用水道施設の新規整備や既存施設機能強化等に対する補助金や公営企業債などの財政支援について、政府に対し要望を行いました。
- 3) **第一浄水場の既設配水管更新の設計業務に国庫補助金を活用**していきます。また、国が新たに半導体の生産拠点の関連インフラ整備を支援する**地域産業基盤整備推進交付金**を創設したことを受け、新北上浄水場建設事業を対象とした交付金の交付決定を受けました。

（3）主な課題と今後の対応

① 経営の効率化

金ヶ崎ろ過施設のダウンサイジングに向けた配水池増設工事は、令和6年度の工事着手に向けて手続を進めます。

② 適切な収入の確保

- 1) 物価高騰の影響など、**ユーザー企業の実使用水量の動向を注視**するとともに、関係部局と連携しつつ、**新規立地企業の情報収集や給水に向けた対応**を行っていきます。
- 2) 補助金や公営企業債に関する国の動向等を注視しながら、引き続き、適時必要な要望等を行っていきます。

令和5年度 経営評価総括表（実績）

3 組織力向上と地域貢献

（取組の方向性）（1）組織力向上

（1）経営目標、参考指標の状況

経営目標		1/4	2/4	3/4	4/4	年間	達成度
第二種電気主任技術者 新規資格取得者数(人) (※計画期間(R2~R5)累計)	計画	5				5	A
	実績	7	7	7	9	9	
第一種ダム水路主任技術者 新規資格取得者数(人) (※計画期間(R2~R5)累計)	計画	2				2	D
	実績	1	1	1	1	1	

注) 達成度：実績値 / 目標値 × 100 A：100%以上、B：80%以上100%未満、C：60%以上80%未満、D：60%未満

参考指標	参考値	1/4	2/4	上半期	3/4	4/4	年間
[参考]第二種電気主任技術者有資格者数(人) (R1 未実績)	6	5	5	5	5	7	7
[参考]第一種ダム水路主任技術者有資格者数(人) (R1 未実績)	6	8	8	8	8	8	8
[参考]専門研修受講者数(人) (H25~30 平均)	412	118	100	218	66	225	509
[参考]職員満足度調査における満足度(%) (R1 未実績)	79	—	—	—	79*	—	79*
[参考]企業局施設見学者数(人) (H25~30 平均)	1,574	256	729	985	380	67	1,432

※ 働き方改革関連の職員アンケートにおける職員満足度

【特記事項】

- 第一種ダム水路主任技術者の資格取得に向け、県土整備部のダム点検に同行し経験を積む取り組みを進めたほか、1名が令和6年3月に免状交付申請をして令和6年4月5日付けで免状交付を受けました。
- 新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴う行動制限の緩和等の影響により、施設見学者数は前年度と比較し約1.8倍に増加しました。

（2）取組内容の達成状況

取組内容		進捗	成果	取組内容		進捗	成果
①	ア 職員採用・人事交流と組織体制の整備	△	A	③	ア ワーク・ライフ・バランスの確保	△	A
	イ 有資格者の計画的な確保	△	B		イ 職場の働きやすさ向上	△	B
	ウ 人材育成・技術継承	△	A		ウ 安全衛生対策の充実	△	A
	エ 経営力の強化	△	A	④	ア 広報活動	△	A
②	ア 災害への対応体制の確立	△	A		イ 企業局施設の見学者の受入れ、施設見学会の開催	△	A
	イ リスクマネジメント	△	A				

注) 進捗状況 a：取組が完了できる見込み b：(複数の取組目標を設定している場合)a判定のものとc判定のものが両方ある場合

c：取組完了が困難な見込み

注) 成果状況 A：目標とした成果を達成した B：(複数の取組目標を設定している場合)A判定のものとC判定のものが両方ある場合

C：目標とした成果を達成できなかった

【特記事項】

① 人材の確保・育成

- 1) 新北上浄水場の一部給水開始等に伴い県南施設管理所の職員を2名増員したほか、県南施設管理所の土木工事等の業務量の増加に対応するため職員を適正に配置するなど、事業運営の安定に配慮した職員配置に努めました。
- 2) 電力及び工業用水の安定供給に向けた体制を維持・確保するため、電気職2名、機械職1名を新たに採用しました。また、引き続き有為な人材を確保するため、学校訪問及び就職説明会での職員による業務説明やインターンシップの受け入れなどを実施しました。
- 3) 新採用職員研修は、所属にかかわらず共通する事項を研修項目として取り込み4日間実施し、また、新任職員研修のうち座学研修はこれまでの集合形式のほか、当日収録した講義動画を一定期間内に視聴出来るようにしました。

② 危機管理対策、リスクマネジメント

- 1) 経営課題に対応し、長期経営方針に掲げる基本理念及び経営方針の実現に向けて、**第2期中期経営計画を策定**しました。
- 2) 岩手山噴火による被害を想定した災害対応訓練（行動計画、被害想定作成、災害対応模擬訓練、情報伝達訓練）を実施し、災害対応力の維持・強化を図りました。

③ 職場環境の充実

- 1) 働き方改革に関する取組のフィードバックを行うとともに、今後の方向性を検討するため、**働きやすい職場づくりに関するアンケートを実施**しました。
- 2) 企業局働き方改革ロードマップに基づき、無線LANアクセスポイントの設置、局内研修、健康相談会など、効率的な業務遂行や働きやすい職場環境の実現に向けた取組を進めました。
- 3) 職員の働きやすさ向上を図るため、以下の工事等を実施しました。
 - ・施設総合管理所改修工事：R6.3 契約済み
 - ・北ノ又第二発電所女性用トイレ増設工事：R6.1 修正設計完了
 - ・早池峰発電所女性用トイレ改修工事：R6.1 完成

④ 企業局事業の理解促進

- 1) 企業局のイメージキャラクターを活用した広報活動を計画的かつ組織的に行うことを目的とした「みずりん・みどりお知らせ隊」を組織し、各種イベントにおいて企業局事業のPRを行いました。また、**令和2年度以来となる施設見学会を開催**しました。
- 2) 令和5年6月に開催された全国植樹祭において、高田松原津波復興祈念公園に設けられたおもてなし広場にブース出展し、企業局事業のPRを実施しました。
- 3) 新たな施設の供用開始に伴うPR動画の制作を進めており、その一環としてテレビ番組及びテレビコマーシャルといったマスメディアを活用した広報活動を実施しました。

(3) 主な課題と今後の対応

① 人材の確保・育成

- 1) 職員採用については、積極的なリクルート活動により人材確保に努めるとともに、業務を円滑に推進するため、必要な組織体制の整備や適正な人員配置に努めます。また、効率的な業務の進捗を確保するための組織再編を引き続き検討していきます。
- 2) 第二種電気主任技術者や第一種ダム水路主任技術者の資格取得に向けて、**局内の支援・奨励による取得者数の更なる確保・育成**を目指します。
- 3) 「企業局職員育成ビジョン」に基づき、専門性と経営感覚を備えた意識・能力の高い職員の養成に取り組んでいきます。

② 危機管理対策、リスクマネジメントの取組

必要に応じて災害応急対策マニュアルや協定などを見直します。

③ 職場環境の充実

- 1) 「企業局働き方改革ロードマップ」に基づき、ワーク・ライフ・バランスの確保や働きやすい職場環境の実現に向けた取組を進めます。
- 2) 北ノ又第二発電所の女性用トイレ増設工事は、令和6年度の発注を目指し、発注手続きを進めます。
- 3) 施設総合管理所改修工事は、令和6年度の工事完成を目指し、工事を進めます。

④ 企業局事業の理解促進

令和7年度に企業局設立70周年を迎えることから、**記念事業の実施**に向けた検討を進めていきます。

令和5年度 経営評価総括表（実績）

3 組織力向上と地域貢献

（取組の方向性）（2）地域貢献

（1）経営目標、参考指標の状況

経営目標	目標(t以上/年)	実績(t以上/年)	達成度
地域貢献による温室効果ガス削減量	120	272	A

注) 達成度：実績値 / 目標値 × 100 A：100%以上、B：80%以上100%未満、C：60%以上80%未満、D：60%未満

参考指標（H22～30平均）	参考値	1/4	2/4	上半期	3/4	4/4	年間
[参考]クリーンエネルギー導入支援事業の支援金額(千円)	23,000	0	0	0	0	24,631	24,631
[参考]クリーンエネルギー導入支援事業の支援件数(件/年)	9	0	0	0	0	9	9
[参考]植樹活動支援事業の支援金額(千円)	2,300	7,557	868	8,425	200	200	8,825
[参考]植樹活動支援事業の支援件数(件/年)	13	8	5	13	1	1	15

【特記事項】

クリーンエネルギー導入支援事業は、全国植樹祭で使用する苗木の購入を支援したこと等により、前年度と比較して温室効果ガス削減量は約1.9倍と大きく増加しました。

（2）取組内容の達成状況

取組内容		進捗	成果	取組内容		進捗	成果
①	ア 小売電気事業者と連携した取組	△	A	②	ア クリーンエネルギー導入促進事業（市町村等向け補助事業）	△	A
	イ 一般会計への繰出し	△	A		イ 環境保全・クリーンエネルギー導入促進事業向けの一般会計への繰出し	△	A
					ウ 市町村等が行う植樹活動への支援	△	A
				③	ア 水素利活用への取組	△	A

注) 進捗状況 a：取組が完了できる見込み b：（複数の取組目標を設定している場合）a判定のものとc判定のものが両方ある場合
c：取組完了が困難な見込み

注) 成果状況 A：目標とした成果を達成した B：（複数の取組目標を設定している場合）A判定のものとC判定のものが両方ある場合
C：目標とした成果を達成できなかった

【特記事項】

① 電力供給を通じた地域貢献

- 東北電力株式会社と連携して取り組んでいるいわて復興パワー（電気料金割引）は、エネルギー価格の高騰を受け、県内の多くの事業者様から申込みをいただき、令和5年4月10日をもって募集上限に達したことから、新規の受付を停止しました。また、いわて復興パワー水カプレミアムによるCO₂フリー電気を供給している企業等は令和6年3月末時点で26件となっています。
- 久慈地域エネルギー株式会社と連携して取り組んでいるアマリングリーンでんきによる地産地消CO₂フリー電気を供給している企業等は、令和6年3月末時点で38件（kWhベースの利用率：94.6%）となっています。
- 環境保全・クリーンエネルギーの導入促進、震災復興・ふるさと振興、グリーン社会の実現に資する施策（水素利活用関連事業含む）及び新型コロナウイルス感染症対策に係る支援として、電気事業会計の過年度利益剰余金の積立金から一般会計に対し約12億円の財政支援を行いました。また、医療局に対し30億円の貸付を行いました。

② 地球温暖化防止に向けた取組

水源涵養の促進及び環境保全を目的とした15件の植樹活動に苗木提供等の支援を実施したほか、5件の植樹活動に44名の企業局職員が参加しました。また、令和5年6月に開催された全国植樹祭において、一般招待植樹で使用する苗木のうち3,112本の購入を支援しました。

(3) 主な課題と今後の対応

① 電力供給を通じた地域貢献

- 1) 令和6年度以降の新たな電力供給契約に基づき、**電気料金の割引**や**CO₂フリー電気の供給**を実施するため、小売電気事業者と連携し準備を進めていきます。
- 2) いわて復興パワー水力プレミアムは、企業局から供給する電力量を上限として運用していますが、供給可能量に余裕があるため、東北電力株式会社及び東北電力フロンティア株式会社や関連部局と連携しながら PR に取り組み、活用促進を図っていきます。
- 3) 県内の地域新電力より、FIT 発電所の環境価値を有効に活用したいとの要望があったことから、再生可能エネルギーの地産地消の推進に向け検討していきます。

③ 水素利活用推進プロジェクト

県の水素利活用に関する検討会議への参加及び取組の方向性や今後の動向に関する情報収集を行いつつ、引き続き財政支援に取り組みます。

令和5年度 経営評価総括表（実績）

【補足説明資料】

1 電気事業

① 供給電力量電源別内訳(百万 kWh)

		1/4	2/4	上半期	3/4	4/4	年間
水力	計画	208	121	329	80	111	520
	実績	184	144	328	<u>86</u>	<u>121</u>	<u>535</u>
	達成率	89	119	100	<u>107</u>	<u>109</u>	<u>103</u>
風力	計画	14	9	23	16	17	56
	実績	16	12	27	<u>16</u>	<u>15</u>	<u>58</u>
	達成率	110	126	116	<u>101</u>	<u>91</u>	<u>104</u>
太陽光	計画	0.46	0.40	0.87	0.24	0.19	1.29
	実績	0.51	0.51	1.02	<u>0.27</u>	<u>0.34</u>	<u>1.63</u>
	達成率	109	126	117	<u>114</u>	<u>181</u>	<u>126</u>
合計	計画	222	131	353	96	128	577
	実績	200	156	356	<u>102</u>	<u>137</u>	<u>595</u>
	達成率	90	119	101	<u>106</u>	<u>107</u>	<u>103</u>

各項目の数値は、単位未満を四捨五入しているため、表中の数字で計算した場合、合計や達成率が一致しない場合があります。

② 気象データ(%)

	1/4	2/4	上半期	3/4	4/4	年間
出水率	73	105	84	<u>129</u>	<u>139</u>	<u>104</u>
降水量年比	122	99	108	<u>98</u>	<u>108</u>	<u>106</u>
平均風速年比	97	108	102	<u>93</u>	<u>92</u>	<u>97</u>
日射量年比	102	116	108	<u>97</u>	<u>98</u>	<u>104</u>

③ 供給停止*件数の過去平均と原因別比較(件)

	H22-H30 平均	R2	R3	R4	R5
人的ミス等	1	1	2	1	1 (R4 から継続)
設備不良等	2	4	2	6	3
合計	3	5	4	7	4

*供給停止：人的ミスや設備不良など、企業局の責による理由で、計画した電力の供給ができないこと

④ 発電所建屋等の耐震化工事(箇所)

	R1 まで	R2	R3	R4	R5
計画	—	2	2	—	—
実績	16	2	1	1	0
達成率	80%	90	95	100	100

⑤ 電力土木施設の耐震診断(箇所)

	R1 まで	R2	R3	R4	R5
計画	—	2	5	3	2
実績	25	2	5	2	2
達成率	68%	73	86	92	97

令和5年度 経営評価総括表（実績）

⑥ 電力料収入(百万円、税抜)

		1/4	2/4	上半期	3/4	4/4	年間
水力	予算	1,614	1,472	3,087	1,374	1,385	5,846
	実績	1,577	1,481	3,057	<u>1,372</u>	<u>1,433</u>	<u>5,863</u>
	達成率	98	101	99	<u>100</u>	<u>104</u>	100
風力	予算	319	199	518	354	359	1,232
	実績	335	253	588	<u>342</u>	<u>328</u>	<u>1,258</u>
	達成率	105	127	113	<u>96</u>	<u>91</u>	<u>102</u>
太陽光	予算	17	14	32	10	10	51
	実績	18	18	37	<u>10</u>	<u>12</u>	<u>59</u>
	達成率	107	127	101	<u>99</u>	<u>127</u>	<u>114</u>
合計	予算	1,950	1,686	3,637	1,738	1,754	7,129
	実績	1,930	1,752	3,682	<u>1,723</u>	<u>1,774</u>	<u>7,179</u>
	達成率	99	104	101	<u>99</u>	<u>101</u>	<u>100</u>

各項目の数値は、単位未満を四捨五入しているため、表中の数字で計算した場合、合計や達成率が一致しない場合があります。

⑦ 収入・支出の状況(百万円、税抜)

	経営計画	予算額	決算額
経常収益	6,993	7,324	<u>7,442</u>
経常費用	5,619	6,690	<u>5,824</u>
経常利益	1,374	634	<u>1,618</u>

(経常収益 = 電気事業収益 - 特別利益)

(経常費用 = 電気事業費用 - 特別損失 - 予備費)

(経常利益 = 経常収益 - 経常費用)

2 工業用水道事業

① 実使用水量(千 m^3)

	1/4	2/4	上半期	3/4	4/4	年間
計画	2,679	2,788	5,467	2,944	3,147	11,558
実績	2,220	2,419	4,639	2,398	<u>2,321</u>	<u>9,358</u>
達成率	82.9%	86.8%	84.9%	81.5%	<u>73.8%</u>	<u>81.0%</u>

② 料金収入(百万円、税抜)

		1/4	2/4	上半期	3/4	4/4	年間
一般給水	予算	168	173	341	182	192	715
	実績	161	163	324	170	<u>169</u>	<u>663</u>
	達成率	95.8%	94.2%	95.0%	93.4%	<u>88.0%</u>	<u>92.7%</u>
ろ過給水	予算	51	51	102	52	51	205
	実績	51	52	103	52	51	206
	達成率	100.0%	102.0%	101.0%	100.0%	100%	100%
合計	予算	219	224	443	234	243	920
	実績	212	215	427	222	<u>220</u>	<u>869</u>
	達成率	96.8%	96.0%	96.4%	94.9%	<u>90.5%</u>	<u>94.5%</u>

③ 収入・支出の状況(百万円、税抜)

	経営計画	予算額	決算額
経常収益	1,033	961	<u>908</u>
経常費用	1,500	<u>1,634</u>	<u>1,424</u>
経常利益	Δ 467	Δ 673	<u>Δ516</u>

(経常収益 = 工業用水道事業収益 - 特別利益)

(経常費用 = 工業用水道事業費用 - 特別損失 - 予備費)

(経常利益 = 経常収益 - 経常費用)

第1期中期経営計画期間（R2～R5）評価の総括

1 電気事業

【主な成果等】

- (1) 「**運転年数 100 年**」を実現するための基盤づくりに向け、更新・改良・修繕工事等の10か年計画を毎年度見直ししながら、概ね計画どおりに実施するとともに、長寿命化や耐震化に向けた施設の診断及び対策工事等に取り組み、計画期間を通じて**供給電力量の経営目標を達成**するなど、再生可能エネルギーを利用した電力の安定供給を行いました。
- また、より安全で効率的な保守管理に向け、令和2年度に**各事業所へ空中ドローンを配備**したほか、各種ドローンを活用した土木施設の点検、IoT技術を活用した**電気・機械設備のデータ収集**や、**自走式巡視ロボット**などの実証試験に取り組み、さらに、今後の新技術導入ロードマップとなる**スマート保安導入計画**を策定しました。
- (2) **再生エネルギーの維持拡大**に向け、ダム建設事業と緊密に連携しながら**築川発電所**建設事業を進め、**令和3年7月に営業運転を開始**したほか、高経年化が進んでいた**稲庭高原風力発電所**の再開発事業を実施し、**令和4年7月に営業運転を開始**しました。同じく高経年化が進んでいる**入畑発電所、胆沢第二発電所**についても総合的な再開発事業に着手し、令和3年度に固定価格買取制度の認定を受け、**令和7年度及び令和8年度の営業運転開始**に向け、機器の設計及び工事を進めました。
- (3) **経営環境の変化に対応した安定経営**に向け、電力自給率の向上・安定経営・地域貢献を基本方針とした公募型プロポーザルにより**電力供給契約を締結**しました。加えて、令和2年度から新たに創設された**容量市場に継続して応札**し、毎年度全ての容量が約定するなど、新たな制度にも対応しながら、適正な収入の確保に努めました。

【経営目標の達成状況】

- (1) 「運転年数 100 年」を実現するための基盤づくり

経営目標		R2	R3	R4	R5
供給電力量(百万 kWh)	計画	559	536	594	577
	実績	674	563	580	595
	達成度	A	A	B	A
発電所建屋等の耐震化率(%)	計画	90	100	100	100
	実績	90	95	100	100
	達成度	A	B	A	A
電力土木施設の耐震診断進捗率(%)	計画	73	86	95	100
	実績	73	86	92	97
	達成度	A	A	B	B

- (2) 再生可能エネルギーの維持拡大

経営目標		R2	R3	R4	R5
新規開発・再開発による供給電力量(千 kWh)	計画	—	7,757	12,699	12,699
	実績	—	6,258	10,059	10,361
	達成度	—	C	C	B

- (3) 経営環境の変化に対応した安定経営

経営目標		R2	R3	R4	R5
経常収支比率(%)	計画	122	124	127	124
	実績	146	132	135	128
	達成度	A	A	A	A

2 工業用水道事業

【主な成果等】

- (1) **良質な工業用水の安定供給**に向けて、年度別事業実施計画に基づき施設の強靱化及び大規模災害に備えるための工事を実施したほか、**水質異常時の対応訓練**や**油流出事故防止活動**や**トラブル対応訓練**を実施しました。また、保守管理の省力化や充実に向け、**ドローン**などの**新技術**を導入して維持管理を行いました。
- (2) **新たな水需要への対応**に向けて、**新北上浄水場建設事業**に取り組み、第三期まで予定している工事のうち、**第一期建設工事を完成**させ、**令和5年4月から一部給水を開始**しました。また、更なる水需要に対応するために、第二期建設工事に着手しました。
- (3) **安定的な事業運営**に向けて、令和3年度から**第一北上中部工業用水道と第二北上中部工業用水道の事業を統合**して効率的な事業運営を図ったほか、水需要の動向を踏まえて**金ヶ崎ろ過施設のダウンサイジング**に向けた電気設備の更新工事や配水池の改良設計を実施しました。

【経営目標の達成状況】

- (1) 良質な工業用水の安定供給

経営目標		R2	R3	R4	R5
供給停止件数(件)	計画	0	0	0	0
	実績	1	1	0	0
	達成度	D	D	A	A

- (2) 新たな水需要への対応

設定なし

- (3) 安定的な事業運営

経営目標		R2	R3	R4	R5
経常収支比率(%)	計画	100	107	109	69
	実績	107	112	106	64
	達成度	A	A	B	B

3 組織力向上と地域貢献

【主な成果等】

- (1) **組織力向上**に向け、危機管理対策として、建設が完了した発電所についても**災害時応急対策協定を岩手県建設業協会と締結**し、全発電施設の応急対策業務に係る協力体制を構築しました。

また、職員のワーク・ライフ・バランスの確保や働きやすさ向上に向け、働き方改革に計画的に取り組むため、「**企業局働き方改革ロードマップ**」を策定し、ノート型パソコンの導入や押印の見直し、電子決裁・文書管理システムの導入などテレワークの実現に向けた環境整備を行ったほか、フレックスタイム制度の導入やサテライトオフィスの設置を行いました。

- (2) **地域貢献の充実**に向け、「**いわて復興パワー**」による**電気料金割引の対象事業者を拡大**したほか、東北電力株式会社及び久慈地域エネルギー株式会社とそれぞれ連携し、**CO₂フリー電気**の地産地消に向けた「**いわて復興パワー水カププレミアム**」及び「**アマリングリーンでんき**」の提供を開始しました。また、令和2年度から令和5年度までの4か年において、電気事業会計の過年度利益剰余金から県の施策に対し、総額約20億円の財政支援を行ったほか、令和5年度に他会計に対し、30億円の貸付を行いました。

【経営目標の達成状況】

- (1) 組織力向上

経営目標		R2	R3	R4	R5
第二種電気主任技術者 新規資格取得者数（人） （※計画期間（R2～R5）累計）	計画	2	3	4	5
	実績	3	5	7	9
	達成度	A	A	A	A
第一種ダム水路主任技術者 新規資格取得者数（人） （※計画期間（R2～R5）累計）	計画	0	1	1	2
	実績	0	1	1	1
	達成度	—	A	A	D

- (2) 地域貢献

経営目標		R2	R3	R4	R5
地域貢献事業による 温室効果ガス削減量（t/年）	計画	120以上	120以上	120以上	120以上
	実績	73	114	145	272
	達成度	C	B	A	A

1 電気事業

（取組の方向性）（1）「運転年数100年」を実現するための基盤づくり

（1）経営目標の達成状況

経営目標		R2	R3	R4	R5
供給電力量(百万 kWh)	計画	559	536	594	577
	実績	674	563	580	595
	達成度	A	A	B	A
発電所建屋等の耐震化率(%)	計画	90	100	100	100
	実績	90	95	100	100
	達成度	A	B	A	A
電力土木施設の耐震診断進捗率(%)	計画	73	86	95	100
	実績	73	86	92	97
	達成度	A	A	B	B

注) 達成度：実績値 / 目標値 × 100 A：100%以上、B：80%以上100%未満、C：60%以上80%未満、D：60%未満

参考指標（H22-30 平均）	参考値	R2	R3	R4	R5
[参考]水力発電所の供給停止件数(件/年)	3	5	4	7	3
[参考] 〃 の供給停止時間(時間/年)	68	1,312	851	3,824	259
[参考] 〃 の供給停止電力量(百万 kWh/年)	0.055	1.874	0.380	22.34	3.977

【特記事項】

- ① 供給電力量について、令和4年度は国道107号法面変状対策に伴う湯田ダム（仙人発電所）の水位制限の影響などから目標未達となりましたが、計画期間全体においては概ね目標を達成することができました。
- ② 発電所建屋等の耐震化率について、令和4年度の仙人発電所建屋耐震化工事完成をもって全ての発電所建屋の耐震化が完了し、目標を達成することができました。
- ③ 電力土木施設の耐震診断進捗率について、令和4年度に実施を計画していた四十四田発電所取水塔は、国土交通省が進めている北上川ダム再生事業の影響を受けて実施を見送ったことから97%にとどまりました。

（2）取組内容の達成状況

取組内容	R2	R3	R4	R5	取組内容	R2	R3	R4	R5	
① ア 年度別事業実施計画に基づく修繕・改良等の実施	A	B	B	B	③ ア 新技術の導入	A	A	A	B	
	イ 電力土木施設等長寿命化対策	A	A	A		B	イ 発電所遠方監視制御装置のIP化	A	A	A
	ウ 耐震化計画の推進	A	B	A	A	④ ア 農業用水の安定供給に向けた機能維持	A	B	A	A
② ア 適切な保守作業の実施	A	A	A	A	イ 河川管理者等との連携		A	A	A	A
	イ 風水害への備え	A	A	B	A		ウ 発電所共同運転事業者との連携	A	A	A
	ウ マニュアル等の見直し	A	A	A	A					

【特記事項】

- ① 施設の強靱化及び大規模災害への備え
 - 1) 計画的な修繕及び改良の実施については、世界的な半導体不足による部品納期の長期化等により、当初計画どおりに工事を進められないことがありましたが、機器の状況を勘案したうえで施工内容及び施工時期を適切に設定し、年度別事業実施計画を見直しながら進めました。
 - 2) 電力土木施設の長寿命化対策については、北上川ダム再生事業の影響や共同事業者との協議を踏まえ、計画の見直しがありましたが概ね計画どおりに取組を進めました。
- ② 適切な保守管理の実施
 - 1) 新型コロナウイルス感染症の流行下において、運転当直員が感染した場合でも電力の安定供給を継続できるよう、第二制御室を別の建屋に増設しました。

第1期中期経営計画期間（R2～R5）経営評価総括表

2) 風水害への備えについて、令和4年度に北ノ又第二発電所地すべり対策復旧工事を降雪のため一部次年度に繰り越しましたが、このほかは計画的に事業を進めました。

③ 新技術の活用について

1) 令和2年度に各事業所へ空中ドローンを配備したほか、各種ドローンを活用した土木施設の点検、IoT技術を活用した電気・機械設備のデータ収集や、自走式巡視ロボットなどの実証試験に取り組みました。

2) 新技術の導入について、令和5年度に導入する予定であった遠隔監視装置は、想定よりも費用が高額であったことから、実施時期を再検討することとしました。

3) スマート保安技術の導入促進に向けて、新技術導入ロードマップとなるスマート保安導入計画を令和6年3月に策定しました。

④ 農業用水の安定供給・共同事業者との連携

1) 農業用水の安定供給に向けた機能維持について、令和3年度に計画した胆沢第二発電所の若柳堰堤ゲート自動制御更新工事において、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大等により、操作卓の製作が遅れましたが、そのほかは計画どおりに取組を進めました。

2) 農林水産省や土地改良区と連携して施設の運営及び維持管理に努め、農業用水の安定供給を継続しました。

(3) 主な課題と今後の対応

① 世界的な半導体不足やウクライナ危機などに伴う資機材納期の長期化、受注企業等の人材不足、入札不調及び物価高騰などによって工事等の繰越または繰り延べが生じており、外部環境の変化を踏まえた計画的な修繕・改良が必要です。

② 水力発電所の供給停止が過去に比べて増加傾向にあり、ヒューマンエラーを防止するための人材育成強化など電力の安定供給に向けた対策が必要です。

第1期中期経営計画期間（R2～R5）経営評価総括表

1 電気事業

（取組の方向性）（2）再生可能エネルギーの維持拡大

（1）経営目標の達成状況

経営目標		R2	R3	R4	R5
新規開発・再開発による 供給電力量(千 kWh)	計画	-	7,757	12,699	12,699
	実績	-	5,655	10,059	10,361
	達成度	-	C	C	B

注) 達成度：実績値 / 目標値 × 100 A：100%以上、B：80%以上 100%未満、C：60%以上 80%未満、D：60%未満

【特記事項】

築川ダムの上水率が計画期間全体で見込みより少なく、築川発電所の供給電力量が計画を下回ったことに加え、稲庭高原風力発電所の再開発事業による運転開始が計画より4か月遅れたため、新規開発・再開発による供給電力量は目標を達成することが出来ませんでした。

（2）取組内容の達成状況

取組内容		R2	R3	R4	R5	取組内容		R2	R3	R4	R5
① ア 築川発電所の建設	イ-1 新規開発に向けた調査等(水力発電)	A	A	A	A	② ア 稲庭発電所の再開発	イ 胆沢第二発電所の再開発	A	B	B	B
	イ-2 新規開発に向けた調査等(水力発電以外)			A	A		ウ 入畑発電所の再開発	A	B	A	A
								エ 再開発の検討	A	A	A

【特記事項】

① 新規開発の推進

- 築川発電所について、令和2年3月の出水により築川ダムの工事が遅れ、発電所建屋工事など一部の工事着手が遅れましたが、ダム建設事業と連携して工程調整を進め、計画どおり令和3年7月に営業運転を開始することが出来ました。
- 新規開発地点の調査、事業可能性の検討について、令和2年度に過年度調査地点の整理を行い、令和3年度に1地点の流況観測調査、令和4年度に6地点の開発可能性調査、令和5年度に4地点の開発可能性調査及び4地点の概略設計を実施しました。

② 再開発の推進

- 稲庭高原風力発電所の再開発について、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大及び半導体不足の影響により一部部品の納入が遅れたことから、当初計画から4か月遅れ、令和4年7月に営業運転を開始しました。なお、再開発にあたり、3台あった風車を1台に集約して保守性を高めたほか、高効率な風車を採用して供給電力量の向上を図りました。
- 胆沢第二発電所及び入畑発電所の再開発について、令和3年度に計画していた水車発電機基礎構築設計業務は、費用増嵩により当該業務を次年度に延期したことや、胆沢第二発電所においては、令和5年度に計画していた発電所建屋改修工事を延期するなど一部工程の遅延がありましたが、令和4年3月に固定価格買取制度の認定を取得したことや、農業用水の供給に必要な胆沢第二発電所代替放流設備設置工事を令和6年3月に完成させるなど、そのほかは概ね計画どおりに取組を進めました。

（3）主な課題と今後の対応

- 2050年温室効果ガス排出量実質ゼロに寄与するため、引き続き水力発電所の新規開発に取り組んでいきます。また、既存インフラの活用を含めた新規開発地点の調査やこれまでの流量観測等の調査結果から、有望地点の開発可能性を精査するとともに、国の支援制度や技術開発の動向等を踏まえながら調査検討を進めます。

第1期中期経営計画期間（R2～R5）経営評価総括表

② 既設の水力発電所において、送電線容量の不足などから、これまで有効に発電に利用することができなかった未利用エネルギーについて、送電線の利用ルールの変更^{*1}により、既存の水力発電所の出力アップができる可能性があるため、設備の状態把握やポテンシャルの試算などを進めています。

※1 送電線の利用ルール変更：再生可能エネルギー導入量の拡大に向け、既存の電力系統を最大限活用するため、電力系統の容量に空きがあったときに発電し、電力系統の容量に空きがなくなったときには発電を抑制することを前提として電力系統に電源を接続するいわゆる「ノンファーム型接続」が2021年1月から開始された。

第1期中期経営計画期間（R2～R5）経営評価総括表

1 電気事業

（取組の方向性）（3）経営環境の変化に対応した安定経営

（1）経営目標の達成状況

経営目標		R2	R3	R4	R5
経常収支比率(%)	計画	122	124	127	124
	実績	146	132	135	128
	達成度	A	A	A	A

注) 達成度：実績値 / 目標値 × 100 A：100%以上、B：80%以上 100%未満、C：60%以上 80%未満、D：60%未満

【特記事項】

経常収支比率は、供給電力量を概ね計画どおりに達成できたことから目標を達成することが出来ました。

（2）取組内容の達成状況

取組内容					R2	R3	R4	R5	取組内容					R2	R3	R4	R5
①	ア	適正な売電価格の確保	A	A	A	A	②	ア	業務の効率化	A	A	A	A				
	イ	供給電力量の向上に向けた取組	A	A	A	A		イ	経費の平準化	A	A	A	A				
	ウ	地域新電力との協働・連携	A	A	A	A	③	電力の新たな付加価値に関する情報収集等	A	A	A	A					

【特記事項】

① 適正な収入の確保

- 1) 電力自給率の向上・安定経営・地域貢献を基本方針とした公募型プロポーザルを令和3年度及び令和5年度に実施し、電力供給契約を締結しました。また、令和2年度から新たに創設された容量市場に継続して応札し、毎年度全ての容量が約定するなど、新たな制度にも対応しながら、適正な収入の確保に努めました。
- 2) 供給電力量の向上に向け、仙人発電所の大規模改良工事において高効率水車を導入したほか、四十四田発電所及び御所発電所において試行的に洪水後期の放流を活用する取組を行いました。

② 経営の効率化について

- 1) 保守業務の効率化について、年度別事業実施計画（10か年計画）様式の見直し等を特定課題として検討し、今後の局内の対応方針を決定しました。
- 2) 電力の新たな付加価値の検討について、令和2年度から顕在化された水力発電の非化石価値を電力供給契約に基づき、供給電力と併せて契約先へ受け渡しを行いました。

（3）主な課題と今後の対応

- ① 適正な売電収入の確保について、必要な経費や市場価格を考慮した適正な売電収入の確保に努めます。容量市場については、引き続き応札を行い、適切に契約を履行します。非化石価値については小売電気事業者との電力供給契約に基づき適切に受け渡します。令和6年度に導入された発電側課金^{※2}については、国が定めるガイドライン等に基づき対応していきます。
- ② 供給電力量の向上に向けた取り組みについて、国土交通省管理のダムで試行している供給電力量の増加に向けた洪水後期放流活用操作を、各ダムの管理者と連携して継続します。また、高経年化により機能低下した機器の更新に当たっては、効率の良い機器の導入に努めつつ、点検や保守作業による発電停止時間の削減に努めます。
- ③ 経営の効率化を図るため、修繕・改良等の内容の精査や複数工事を合わせた発注のほか、民間ノウハウの活用、発電所毎の特性に応じた保守管理及び新技術の導入による運転や保守管理の効率化など、効率的な管理運営手法について検討します。安定的な経営を行うため、特別修繕引当金制度や建設改良積立金の活用などにより財源確保に努めるほか、長期収支試算の見直しにより経費及び業務の平準化を図ります。

※2 発電側課金：これまで、電力システムの維持・拡充に必要な費用は小売事業者が全て負担していたが、電力システムの効率的な利用、再生可能エネルギーの導入拡大に向けた電力システムの増強を効率的かつ確実にを行うため、令和6年4月から発電事業者が一部負担をするもの。

第1期中期経営計画期間（R2～R5）経営評価総括表

2 工業用水道事業

（取組の方向性）（1）良質な工業用水の安定供給

（1）経営目標の達成状況

経営目標		R2	R3	R4	R5
供給停止件数(件)	計画	0	0	0	0
	実績	1	1	0	0
	達成度	D	D	A	A

注) 達成度：実績値 / 目標値 × 100 A：100%以上、B：80%以上 100%未満、C：60%以上 80%未満、D：60%未満

参考指標（H22-30 平均）	参考値	R2	R3	R4	R5
[参考]工業用水の濁度(度)	0.6	0.5	0.5	0.5	0.3
[参考]工業用水の水素イオン濃度(pH)	7.0	7.00	7.00	7.02	7.06

【特記事項】

供給停止件数は、令和2、3年度に北上ろ過施設の配管老朽化に伴う漏水により各年度で1件発生しましたが、令和4、5年度は供給停止がなく目標を達成することが出来ました。

（2）取組内容の達成状況

取組内容		R2	R3	R4	R5	取組内容		R2	R3	R4	R5
①	ア 旧第三北上中部工業用水道加圧脱水機更新	A	A	/	/	②	ア 適切な保守作業の実施	A	A	A	A
	イ 第二北上中部工業用水道配水管更新	A	A	A	/		イ 適切な水質管理の実施	A	A	A	A
	ウ 第二北上中部工業用水道天日乾燥床増設	A	A	A	/		ウ トラブル発生時の対応	A	A	A	A
	エ 金ヶ崎ろ過施設（第二期）高圧受電設備等更新	/	A	A	/	③	新技術の活用	A	A	A	A
	オ 第一浄水場・第三浄水場配水管布設 ※1	/	B	/	/						
	カ 北上ろ過施設導水管本復旧 ※2	/	C	/	/						
	キ その他修繕・改良工事等	/	/	B	B						

※1 第1浄水場分はR4.3.30に完成。第3浄水場ほか分は北上市道払い下げの時期延期により工事未実施。

※2 令和4年5月末に本復旧工事が完了した。

【特記事項】

① 施設の強靱化及び大規模災害への備え

大規模災害に備えるため、加圧脱水機更新、天日乾燥床増設、金ヶ崎ろ過施設高圧受電設備更新、旧第二北上中部工業用水道配水管更新などを計画的に実施しました。第三浄水場ほか施設の排水管盛替工事は、大手半導体企業の工場用地造成に伴う市道の払下手続きが調わないため、計画どおりに施工することが出来ませんでした。

② 適切な保守管理の実施

水質異常時の対応訓練、油流出事故防止活動やトラブル対応訓練を実施しました。なお、新型コロナウイルス感染症の流行下においても工業用水の安定供給を継続するため、担当職員は接触機会の低減に努めたほか、集団感染が発生した場合に備え代替要員のリストアップを行うなど管理体制の強化を図りました。

③ 新技術の活用

保守管理の省力化や充実に向け、メーカーと連携した実証試験に取り組んだほか、ドローンを活用した建設工事の進捗管理（写真撮影）や建築設備の点検を実施しました。

（3）主な課題と今後の対応

- ① 施設の強靱化について、大規模災害における防災や減災の観点や踏まえ、建屋の浸水対策や機器のかさ上げなどを検討しつつ、施設の点検結果やアセットマネジメント計画等を適切に年度別事業実施計画に反映していきます。
- ② 適切な保守管理について、工業用水道施設維持管理要領に基づき、計画的かつ適切に点検・検査等を実施し、供給停止や水質悪化の未然防止に努めます。
- ③ 新技術の活用について、保守管理の高度化及び業務の効率化に向け、スマートメーターなどの導入に向けた調査検討を行っていきます。

第1期中期経営計画期間（R2～R5）経営評価総括表

2 工業用水道事業

（取組の方向性）（2）新たな水需要への対応

（1）経営目標の達成状況

設定なし

（2）取組内容の達成状況

取組内容	R2	R3	R4	R5
水需要に応じた施設の整備	A	B	B	A

【特記事項】

- ① 新浄水場建設に係る水源確保について、盛岡市と協議を重ね、令和2年10月に水利権及びダム使用权に係る国からの許可を得ました。
- ② 新北上浄水場の整備について、令和3年度及び令和4年度においては取水口建設事業に一部遅れが生じましたが、取水塔第三期まで予定している工事のうち、第一期建設工事を計画どおりに完成させ、令和5年4月から一部給水を開始しました。
- ③ 新北上浄水場の第二期建設事業について、令和5年度に土木工事、機械設備工事及び電気設備工事の契約を締結し、機器設計及び施工を進めました。

（3）主な課題と今後の対応

新北上浄水場第二期建設工事の工程管理を着実に実施し、水需要に合わせて計画的に供給能力を確保していきます。

第1期中期経営計画期間（R2～R5）経営評価総括表

2 工業用水道事業

（取組の方向性）（3）安定的な事業運営

（1）経営目標の達成状況

経営目標		R2	R3	R4	R5
経常収支比率(%)	計画	100	107	109	69
	実績	107	112	106	64
	達成度	A	A	B	B

注) 達成度：実績値 / 目標値 × 100 A：100%以上、B：80%以上100%未満、C：60%以上80%未満、D：60%未満

【特記事項】

経常収支比率は、令和2、3年度に目標を達成できたものの、令和4、5年度においては、契約水量が第1期中期経営計画策定時の計画値に至らなかったため、経常収益が計画を下回り目標を達成することが出来ませんでした。

（2）取組内容の達成状況

取組内容		R2	R3	R4	R5	取組内容		R2	R3	R4	R5
①	ア 業務の効率化	A	A	A	A	②	ア 契約水量の維持・増量に向けた取組	A	A	A	A
	イ 経費の平準化	A	A	A	A		イ 改良費に対する補助金や公営企業債の要望	A	A	A	A
	ウ 効率的な経営のあり方についての検討	A	A	A	C						

【特記事項】

① 経営の効率化

- 1) 経営の効率化について検討した結果、令和3年度から第一北上中部工業用水道と第二北上中部工業用水道の事業を統合しました。
- 2) 水需要の動向を踏まえた金ヶ崎ろ過施設のダウンサイジングについて、電気設備の更新工事や配水池の改良設計を実施しましたが、令和5年度に計画していた配水池増設工事は施工方法と工程の見直しにより工事の実施を延期することになりました。

② 適正な収入の確保

- 1) 契約水量の維持・増量に向けた取組について、個別にユーザーを訪問し、使用水量の動向などについて情報交換したほか、全ユーザーを対象に、今後の工業用水道需要量の調査を行いました。
- 2) 高経年化した脱水機や配水管の更新などに国庫補助金を活用し、企業債の発行抑制に努めました。また、工業用水道施設の新規整備や既存施設機能強化等に対する補助金や公営企業債などの財政支援について、国に要望を行いました。

（3）主な課題と今後の対応

- ① 令和5年度以降は、新浄水場の運用開始等に伴い継続的な赤字が見込まれており、引き続き安定的な事業運営に向けた対策が必要です。
- ② 景気や社会情勢等によりユーザーの工業用水使用計画が不透明さを増しているため、引き続き水需要の動向を把握する必要があります。

第1期中期経営計画期間（R2～R5）経営評価総括表

3 組織力向上と地域貢献

（取組の方向性）（1）組織力向上

（1）経営目標の達成状況

経営目標		R2	R3	R4	R5
第二種電気主任技術者 新規資格取得者数（人） （※計画期間（R2～R5）累計）	計画	2	3	4	5
	実績	3	5	7	9
	達成度	A	A	A	A
第一種ダム水路主任技術者 新規資格取得者数（人） （※計画期間（R2～R5）累計）	計画	0	1	1	2
	実績	0	1	1	1
	達成度	—	A	A	D

注）達成度：実績値 / 目標値 × 100 A：100%以上、B：80%以上100%未満、C：60%以上80%未満、D：60%未満

参考指標	参考値	R2	R3	R4	R5
[参考]第二種電気主任技術者有資格者数(人) (R1 末実績)	6	8	8	7	7
[参考]第一種ダム水路主任技術者有資格者数(人) (R1 末実績)	6	6	7	8	8
[参考]専門研修受講者数(人) (H25～30 平均)	412	359	379	484	509
[参考]職員満足度調査における満足度(%) (R1 末実績)	79	/	70	/	79
[参考]企業局施設見学者数(人) (H25～30 平均)	1,574	380	140	780	1,432

【特記事項】

- ① 第二種電気主任技術者については、計画期間の累計で9名が資格を取得し、目標を達成しました。
- ② 第一種ダム水路主任技術者については、期間中の目標である2名に達しなかったものの、1名が令和6年3月に免状交付申請をして、令和6年4月に免状交付を受けました。

（2）取組内容の達成状況

取組内容	R2	R3	R4	R5	取組内容	R2	R3	R4	R5
① ア 職員採用・人事交流と組織体制の整備 イ 有資格者の計画的な確保 ウ 人材育成・技術継承 エ 経営力の強化	A	A	A	A	③ ア ワーク・ライフ・バランスの確保 イ 職場の働きやすさ向上 ウ 安全衛生対策の充実	A	A	A	A
	A	A	A	B		A	B	B	B
	A	A	A	A		A	A	A	A
	A	A	A	A	④ ア 広報活動 イ 企業局施設の見学者の受入れ、施設見学会の開催	A	A	A	A
② ア 災害への対応体制の確立 イ リスクマネジメント	A	A	A	A		A	A	A	A
	A	A	A	A					

【特記事項】

- ① 人材の確保・育成
 - 1) リクルート活動の一環として、県内の学校に企業局職員を講師として派遣し業務説明を実施しました。
 - 2) 新北上浄水場の一部給水開始等に伴い職員を2名増員したほか、県南施設管理所の土木工事等の業務量の増加に対応するため職員を適正に配置するなど、事業運営の安定に配慮した職員配置を実施しました。
- ② 危機管理対策、リスクマネジメント

建設が完了した発電所の災害時応急対策協定を岩手県建設業協会と締結し、全発電施設の応急対策業務に係る協力体制を構築しました。
- ③ 職場環境の充実
 - 1) 働き方改革に計画的に取り組むため、「企業局働き方改革ロードマップ」を策定し、ノート型パソコンの導入や押印の見直し、電子決裁・文書管理システムの導入などテレワークの実現に向けた環境整備を行ったほか、フレックスタイト制度の導入やサテライトオフィスの設置を行いました。

第1期中期経営計画期間（R2～R5）経営評価総括表

2) 職場の働きやすさの向上に向けて、施設総合管理所の倉庫の建替工事や発電所への女性用トイレを計画し、一部進捗に遅れが生じましたが概ね計画どおりに取組を進めました。

④ 企業局事業の理解促進

新型コロナウイルス感染症の動向に配慮しつつ、施設見学会の実施方法の改善や、ウェブ開催のイベントへのバーチャル出展、企業局施設カードの配布場所の追加など、適宜適切な手法で広報活動を実施しました。

(3) 主な課題と今後の対応

- ① 電気事業、工業用水道事業ともに、既存施設の維持管理に加え、新たな施設の運用開始や、高経年施設の改修や日々進歩する新技術への対応などといった業務の多様化が進むとともに、ヒューマンエラーに起因する供給停止が発生しており、安定供給に向けた人材育成の強化が必要です。
- ② 新型コロナウイルス感染症対策を契機として働き方の多様化が進展しており、仕事と生活の調和や働きやすい職場環境の充実に向けた更なる取組が必要です。

第1期中期経営計画期間（R2～R5）経営評価総括表

3 組織力向上と地域貢献

(取組の方向性) (2) 地域貢献

(1) 経営目標の達成状況

経営目標		R2	R3	R4	R5
地域貢献事業による 温室効果ガス削減量(t/年)	計画	120 以上	120 以上	120 以上	120 以上
	実績	73	114	145	272
	達成度	C	B	A	A

注) 達成度：実績値 / 目標値 × 100 A：100%以上、B：80%以上 100%未満、C：60%以上 80%未満、D：60%未満

参考指標 (H22-30 平均)	参考値	R2	R3	R4	R5
[参考]クリーンエネルギー導入支援事業の支援金額(千円)	23,000	28,800	29,132	36,637	24,631
[参考]クリーンエネルギー導入支援事業の支援件数(件/年)	9	10	9	14	9
[参考]植樹活動支援事業の支援金額(千円)	2,300	1,440	2,104	2,423	8,825
[参考]植樹活動支援事業の支援件数(件/年)	13	9	13	13	15

【特記事項】

温室効果ガス削減量は、令和2年度及び令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響によって植樹イベントが中止となったことなどから、経営目標に届かなかったものの、令和5年度は全国植樹祭を支援したこと等により目標を達成することができました。

(2) 取組内容の達成状況

取組内容	R2	R3	R4	R5	取組内容	R2	R3	R4	R5
① ア 小売電気事業者と連携した取組 イ 一般会計への繰出し	A	A	B	A	② ア クリーンエネルギー導入促進事業 (市町村等向け補助事業) イ 環境保全・クリーンエネルギー導入促進事業向けの一般会計への繰出し ウ 市町村等が行う植樹活動への支援	A	A	A	A
	A	A	A	A		C	A	A	A
					③ 水素利活用への取組	A	A	A	A

【特記事項】

① 電力供給を通じた地域貢献

1) 「いわて復興パワー」による電気料金割引の対象事業者を拡大したほか、東北電力株式会社及び久慈地域エネルギー株式会社とそれぞれ連携し、CO₂フリー電気の地産地消に向けた「いわて復興パワー水力プレミアム」及び「アマリングリーンでんき」の提供を開始しました。

2) 令和2年度から令和5年度までの4か年において、電気事業会計の過年度利益剰余金から県の施策に対し、総額約20億円の財政支援を行ったほか、令和5年度に他会計に対し、30億円の貸付を行いました。

② 地球温暖化防止に向けた取組

地球温暖化防止に寄与するため、市町村等へのクリーンエネルギー導入支援や植樹活動支援などの地域貢献事業を実施しました。

(3) 主な課題と今後の対応

第2次岩手県地球温暖化対策実行計画（令和5年3月改訂）において掲げられた「2030年度の県の事務事業における温室効果ガス排出量を2013年度比で60%削減」の達成に向け、率直的な取組が必要です。

令和5年度岩手県電気事業会計決算概要

- 供給電力量は、水力発電の出水率が好調であったこと等により、前年度比2.6%増の5億9,490万kWh余となり、電力料収入は、前年度比0.3%増の71億7千8百万円余となった。
- 経常収益は、前年度比0.5%減の74億4千2百万円余となり、経常費用は、修繕費の増等により前年度比5.0%増の58億2千4百万円余となった。
- この結果、経常損益、純損益は、前年度比16.1%減の16億1千8百万円余の黒字となった。

1 令和5年度損益

(税抜、単位：千円)

科目	年度 令和5年度 (A)	令和4年度 (B)	比較	
			増減額 (A-B)	増減率 (A-B) / B
経常収益	7,442,562	7,477,032	△34,470	△0.5%
経常費用	5,824,432	5,548,791	275,641	5.0%
経常損益	1,618,130	1,928,241	△310,111	△16.1%
特別利益	—	—	—	—
特別損失	—	—	—	—
純損益	1,618,130	1,928,241	△310,111	△16.1%

2 電力の供給・収入状況

水力発電における出水率が好調であったこと等により供給電力量及び電力料収入は増となった。

区分	年度 令和5年度 (A)	令和4年度 (B)	比較	
			増減量 (A-B)	増減率 (A-B) / B
供給電力量 (千kWh)	594,900	579,771	15,129	2.6%
水力(17発電所)	534,968	519,608	15,360	3.0%
風力(2発電所)	58,306	58,577	△271	△0.5%
太陽光(1発電所)	1,626	1,586	40	2.5%
電力料収入 (千円)	7,178,880	7,157,888	20,993	0.3%

3 経常収益の状況

水力発電所における供給電力量の増等により電力料収入が増(2千万円余)となったものの、事業外収益の減(2千6百万円余)等により、前年度比3千4百万円余(0.5%)減の74億4千2百万円余となった。

4 経常費用の状況

仙人発電所のオーバーホールに伴う修繕費や入畑発電所電気設備撤去工事に伴う除却費の増等により、前年度比2億7千5百万円余(5.0%)増の58億2千4百万円余となった。

5 経常損益、純損益の状況

以上の結果、経常損益、純損益は、前年度比3億1千万円余(16.1%)減の16億1千8百万円余の黒字となった。

なお、経常損益の経営目標に対する実績は次のとおりとなった。

区分	経営目標	実績	増減	備考
経常収支比率	124%	127.8%	3.8ポイント	経営目標を達成

令和5年度岩手県工業用水道事業会計決算概要

- 工業用水供給量は、基本使用水量が増加し、料金収入は、前年度比1.9%増の8億6千9百万円余となった。
- 経常収益は、料金収入が増となったことにより前年度比1.2%増の9億8百万円余となり、経常費用は、減価償却費の増等により前年度比67.9%増の14億2千3百万円余となった。
- この結果、経常損益、純損益は、前年度比1,152.7%減の5億1千5百万円余の赤字となった。

1 令和5年度損益

(税抜、単位：千円)

科目	年度 令和5年度 (A)	令和4年度 (B)	比較	
			増減額 (A-B)	増減率 (A-B) / B
経常収益	908,238	897,139	11,099	1.2%
経常費用	1,423,911	848,152	575,759	67.9%
経常損益	△515,673	48,987	△564,660	△1,152.7%
特別利益	—	—	—	—
特別損失	—	—	—	—
純損益	△515,673	48,987	△564,660	△1,152.7%

2 工業用水の供給・収入状況

実使用水量は減となったものの、ユーザー企業の契約水量の増等により、基本使用水量及び料金収入は増となった。

区分	年度 令和5年度 (A)	令和4年度 (B)	比較	
			増減量 (A-B)	増減率 (A-B) / B
基本使用水量 (千m ³)	15,038	14,442	596	4.1%
実使用水量 (千m ³)	9,358	9,650	△292	△3.0%
超過水量 (千m ³)	43	119	△76	△63.9%
料金収入 (千円)	869,766	853,725	16,042	1.9%

<1 m³当たりの給水単価> (平成23年4月1日から)

(税抜)

料金種別	工業用水料金の額	ろ過料金の額※
基本使用水量 (基本料金)	42 円	35 円
使用水量 (使用料金)	3 円	3 円
超過水量 (超過料金)	90 円	—

※ろ過水使用の場合は、工業用水料金に加算

3 経常収益の状況

基本使用水量の増に伴う料金収入が増 (1千6百万円余) となったことなどにより、前年度比1千1百万円余 (1.2%) 増の9億8百万円余となった。

4 経常費用の状況

新北上浄水場の供用に伴う減価償却費の増等により、前年度比5億7千5百万円余 (67.9%) 増の14億2千3百万円余となった。

5 経常損益、純損益の状況

以上の結果、経常損益、純損益は、前年度比5億6千4百万円余 (1,152.7%) 減の5億1千5百万円余の赤字となった。

なお、経常損益の経営目標に対する実績は次のとおりとなった。

区分	経営目標	実績	増減	備考
経常収支比率	69%	63.8%	△5.2ポイント	経営目標は未達成

分類	取組内容	今年度の取組目標・成果	取組番号	本局担当課
1	電気事業			
	(1)「運転年数100年」を実現するための基盤づくり			
	①施設の強靱化及び大規模災害への備え			
	ア 年度別事業実施計画に基づく修繕・改良の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・仙人発電所水車発電機分解点検補修・大規模改良工事（R3～R5）の完成 ・松川発電所水車発電機分解点検補修等工事(R4～R6)の進捗管理（図面等承諾） ・北ノ又発電所配電盤及び33kVキュービクルほか更新工事(R3～R5)の完成 ・北ノ又第二発電所33kV連絡線更新工事（R3～R5）の完成 ・岩洞第一発電所水車発電機分解点検補修及び配電盤更新工事（R5～R11）の契約締結 ・岩洞第二発電所水車発電機分解点検補修及び配電盤更新工事（R5～R7）の契約締結 ・早池峰発電所水車発電機分解点検補修及び配電盤更新工事（R5～R8）の契約締結 	1	電気担当 電気担当 電気担当 電気担当 電気担当
	イ 電力土木施設等の長寿命化対策	<ul style="list-style-type: none"> ・松川発電所焼切川取水堰堤補修工事の完成 ・松川発電所護岸補修工事設計業務委託の完了 ・耐震診断結果を踏まえた電力土木施設耐震化計画の策定 ・新任電力土木担当職員研修の実施及び電力土木担当職員の現場視察の実施 	2	土木・施設担当 土木・施設担当 土木・施設担当 土木・施設担当
	ウ 耐震化計画の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・岩洞第一発電所軽松沢鉄管橋耐震化対策工事の完成 ・岩洞第二発電所濁川サイフォン耐震化対策工事（R5～R6）の工事着手 	3	土木・施設担当 土木・施設担当
	②適切な保守管理の実施			
	ア 適切な保守作業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・電気主任技術者による保安パトロール等の実施 ・高森高原風力発電所環境モニタリング事後調査業務委託の完了 ・定期点検等における関係者との作業・工事内容に関する事前打合せ・連絡の実施 ・各発電所の特性に関する重要引継事項についての課内研修を年度当初に実施 ・点検手入れ計画表の点検項目を全て実施 ・発電所油流出防止対策検討業務委託の完了 ・令和5年度実施予定の工事等に係る河川法許可の取得 	5	電気担当 電気担当 電気担当 電気担当 土木・施設担当 土木・施設担当
	イ 風水害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・停電時の建屋浸水対策のため御所発電所に非常用発電機を購入 ・自然災害の危険箇所追加調査の実施（5施設） ・北ノ又第二発電所地すべり対策復旧工事の完成 	6	電気担当 土木・施設担当 土木・施設担当
	ウ マニュアル等の見直し	・施設更新等に伴う保守要則の改定	7	電気担当
	③新技術の活用			
	ア 新技術の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術の導入スケジュールの策定 ・四十四田発電所IoT盤新設工事の完成 ・滝発電所保守支援装置導入工事(R5～6)の契約締結 ・北ノ又第三発電所遠隔監視装置の導入 ・鉄管ドローン調査の試行 	8	電気担当 電気担当 電気担当 土木・施設担当
	イ 発電所遠方監視制御装置のIP化	・集中監視制御システム更新工事概略設計業務委託の完了	9	電気担当
	④農業用水の安定供給、共同事業者との連携			
	ア 農業用水の安定供給に向けた機能維持	<ul style="list-style-type: none"> ・年度協定に基づく岩洞ダム共有施設の改良工事（国営岩手山麓農業水利事業）の進捗管理 ・営農に支障をきたす長期供給支障が無く、農業用水を安定的に供給 ・胆沢第二発電所共有施設補修工事の着手 	10	土木・施設担当 土木・施設担当 土木・施設担当
	イ 河川管理者等との連携	・北上川上流ダム再生事業に伴うダム管理者との協議	11	土木・施設担当
	ウ 発電所共同運転事業者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・電源開発(株)との共有施設の点検及び工事の実施事項確認、次年度業務実施計画の決定 ・東北自然エネルギー(株)との共有施設の点検及び工事実施事項の確認 ・和賀川河川環境保全事業の実施 ・和賀川河川現況調査を実施し、和賀川河川環境保全連絡会に報告 	12	電気担当 電気担当 土木・施設担当 土木・施設担当

分類	取組内容	今年度の取組目標・成果	取組番号	本局担当課
(2) 再生可能エネルギーの維持拡大				
① 新規開発の推進				
ア 築川発電所の建設				
	イ-1 新規開発に向けた調査等 (水力発電)	・新規開発地点の現地調査を実施 ・新規開発地点可能性調査業務委託の完了 ・概略設計業務委託の完了(2箇所)	14-1	土木・施設担当 土木・施設担当
	イ-2 新規開発に向けた調査等 (水力発電以外)	・新規電源開発に係る局内研修の実施 ・国の支援制度や技術動向の調査及び分析	14-2	経営企画担当 経営企画担当
② 再開発の推進				
ア 胆沢第二発電所				
		・水車発電機等更新工事の進捗管理(図面等承諾) ・水車発電機基礎構築改修工事の契約締結 ・代替放流設備設置(土木)工事(R3~R5)の完成 ・代替放流設備設置(電気機械)工事(R4~R5)の完成 ・水圧鉄管更新(製作据付)工事(R5~R7)の着手 ・水圧鉄管更新(土木)工事(R5~R7)の着手 ・発電所建屋改修工事(R5~R7)の着手	15	電気担当 電気担当 土木・施設担当 土木・施設担当 土木・施設担当 土木・施設担当
	イ 入畑発電所	・水車発電機等更新工事の進捗管理(図面等承諾) ・水車発電機基礎構築改修工事の工事着手	16	電気担当 電気担当
	ウ 稲庭高原風力発電所			
	エ 再開発の検討	・既設発電所の水車発電機等更新工事詳細設計業務の完了	18	電気担当
(3) 経営環境の変化に対応した安定経営				
① 適正な収入の確保				
	ア 適正な売電価格の確保	・非FIT水力発電所の令和6年度以降の売電契約の締結 ・令和9年度容量確保契約の締結	19	電気担当 電気担当
	イ 供給電力量の向上に向けた取組	・仙人発電所1号ランナ新製工事(R3~R5)の完成・納品 ・四十四田発電所における洪水後期放流活用操作の継続試行	21	電気担当 電気担当
	ウ 地域新電力との協働・連携	・現売電契約に基づく経営状況、県内供給状況、プロポーザル提案事項の確認	22	電気担当
② 経営の効率化				
	ア 業務の効率化	・新たな技術的課題の抽出及び情報共有に向けた技術担当課長会議(4回)及び保守担当者会議(2回)等の実施 ・関係機関と調整のうえ年間作業停止計画を策定し、発電所を効率的に運用	23	電気担当 電気担当
	イ 経費の平準化	・長期的な収支を考慮した10か年計画の改定	24	電気担当
③ 電力の新たな付加価値の検討				
	ア 電力の新たな付加価値に関する情報収集等	・電気事業制度の改正に係る情報収集 ・他事業者動向の調査及び分析	25	経営企画担当 経営企画担当

分類	取組内容	今年度の取組目標・成果	取組番号	本局担当課
2	工業用水道事業			
	(1) 良質な工業用水の安定供給			
	① 施設の強化及び大規模災害への備え			
	ア 第三浄水場加圧脱水機更新工事			
	イ 第二浄水場配水管布設工事			
	ウ 第二浄水場天日乾燥床増設工事			
	エ 金ヶ崎ろ過施設（第二期）高圧受電設備更新等工事			
	オ その他修繕・改良工事等	・北上ろ過施設ろ過器弁類補修工事の完成 ・第一浄水場配水管更新設計業務委託の完了 ・第三浄水場汚泥濃縮槽自動スクリーン更新工事の完成 ・北上ろ過施設配水管盛替工事の完成	30	事業担当 事業担当 事業担当 事業担当
	② 適切な保守管理の実施			
	ア 適切な保守作業の実施	・施設更新等に伴う工業用水道施設維持管理要領の改定 ・工業用水道施設維持管理要領に定める点検項目を全て実施	31	事業担当 事業担当
	イ 適切な水質管理の実施	・工業用水道施設維持管理要領に定める水質計器等の点検項目を全て実施 ・水質異常に対する訓練等の実施 ・油流出事故防止活動の実施	32	事業担当 事業担当 事業担当
	ウ トラブル発生時の対応	・トラブル対応訓練の実施	33	事業担当
	③ 新技術の活用			
	ア 新技術導入の検討	・先進事例等の情報収集・共有	34	事業担当
	(2) 新たな水需要への対応			
	水需要に応じた施設の整備			
	施設・設備の整備	・新北上浄水場建設土木（第二期）工事（R5～R7）の工事着手 ・新北上浄水場建設機械設備（第二期）工事（R5～R7）の機器製作着手 ・新北上浄水場建設電気設備（第二期）工事（R5～R7）の図面承諾	35	事業担当 事業担当 事業担当
	(3) 安定的な事業運営			
	① 経営の効率化			
	ア 業務の効率化	・複数施設の委託業務の合冊発注等による業務の効率化の実施	36	事業担当
	イ 経費の平準化	・長期的な収支を考慮した年度別事業実施計画の改定	37	事業担当
	ウ 効率的な経営のあり方についての検討	・金ヶ崎ろ過施設ダウンサイジングに向けた配水池増設工事（R5～R6）の工事着手	38	事業担当
	② 適切な収入の確保			
	ア 契約水量の維持・増量に向けた取組	・ユーザー企業への訪問 ・新規契約・増量企業等の給水手続きへの適切な対応 ・新規ユーザーへの配水管接続工事の完成	39	事業担当 事業担当 事業担当
	イ 改良費に対する補助金や公営企業債の要望	・国庫補助金や公営企業債枠の拡大を国へ要望 ・企業債の借入等	40	事業担当 事業担当

分類	取組内容	今年度の取組目標・成果	取組番号	本局担当課
3	組織力向上と地域貢献			
(1)	組織力向上			
①	人材の確保・育成			
ア	職員採用・人事交流と組織体制の整備	・インターンシップや業務説明等の実施、知事部局等との人事交流により必要な人材を確保 ・令和5年度の業務運営に最適な組織体制を確保	41	管理担当 管理担当
イ	有資格者の計画的な確保・育成	・資格取得の支援・奨励により資格取得者の確保・養成 ・知事部局等との人事交流を継続し人材を確保	42	管理担当 管理担当
ウ	人材育成・技術継承	・専門研修実施計画に基づく職場研修や局全体対象の現場研修及び関係部局と連携した研修の実施、職場外研修の受講	43	管理担当
エ	経営力の強化	・経営に関する研修、マネジメント支援プログラムの実施	44	管理担当
②	危機管理対策、リスクマネジメントの取組			
ア	災害への対応体制の確立	・災害応急対応訓練の実施	45	管理担当
イ	リスクマネジメント	・事業継続を阻害するおそれのあるリスクを事前に想定し、対策を第2期中期経営計画に反映	46	経営企画担当
③	職場環境の充実			
ア	ワークライフバランスの確保	・ワークライフバランスの実践など働き方改革の推進に向けた業務改善、サテライトオフィス・フレックスタイム制度等の活用促進等の実施 ・局長等と職員との意見交換会の実施 ・職員の不安や悩みの軽減に資するメンタルヘルス・健康推進事業等の実施	47	管理担当 管理担当 管理担当
イ	職場の働きやすさ向上	・企業局働き方改革ロードマップに基づくベース会議の拡大、業務の省力化、柔軟な働き方が出来る執務環境の整備など、これまでの業務改善の定着化及び業務効率化の一層の推進 ・施設総合管理所改修工事（R5～R6）の着手 ・北ノ又第二発電所女性用トイレ増設工事の完成 ・早池峰発電所女性トイレ改修工事の完成	48	管理担当 土木・施設担当 土木・施設担当 土木・施設担当
ウ	安全衛生対策の充実	・安全パトロール、労働災害無事故表彰の実施 ・職員安全衛生委員会の開催	49	管理担当 管理担当
④	企業局事業の理解促進			
ア	広報活動（PRグッズ配布、『みずりん・みどりん』によるPR）	・『みずりん・みどりんお知らせ隊』を結成し、環境関連の県内イベントへの参加や見学対応におけるPR活動を実施 ・環境に配慮した企業局PRグッズの製作 ・みずりん・みどりん日記帳など、特設ホームページを活用した積極的な情報発信	50	経営企画担当 経営企画担当 経営企画担当
イ	企業局施設での見学者の受け入れ、施設見学会の開催	・施設見学会の実施及び見学者の随時受け入れ	51	経営企画担当
(2)	地域貢献			
①	電力供給を通じた地域貢献			
ア	小売電気事業者と連携した取組	・いわて復興パワー（電気料金割引）の継続 ・小売電気事業者と連携したCO ₂ フリーの電力の県内企業等への供給	52	経営企画担当 経営企画担当
イ	一般会計への繰出し	・一般会計への繰出しによる震災復興及びふるさと振興関連施策の財政的支援	53	経営企画担当
②	地球温暖化防止に向けた取組			
ア	クリーンエネルギー導入促進事業（市町村向け補助事業）	・県内のクリーンエネルギーの導入促進及び普及啓発に向けた市町村等に対する補助金の交付	54	経営企画担当
イ	環境保全・クリーンエネルギー導入促進事業向けの一般会計への繰出し	・一般会計への繰出しによる県内の環境保全やクリーンエネルギーの導入促進施策の財政的支援の実施	55	経営企画担当
ウ	市町村等が行う植樹活動への支援	・水源涵養の促進及び環境保全活動を実施する市町村等に対する苗木の提供や職員参加による植樹活動支援の実施 ・令和5年度全国植樹祭への苗木の提供	56	経営企画担当 経営企画担当
③	水素利活用推進プロジェクト			
ア	水素利活用への取組	・県の水素利活用に関する検討会議への参加及び取組の方向性や今後の動向に関する情報収集の実施	57	経営企画担当

長期経営方針期間の収益と費用の推移

1 電気事業

(1) 収益の推移

[単位：百万円]

収益の推移	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
長期経営方針	6,835	6,991	6,937	6,993	6,647	6,646	7,188	7,199	7,208	7,224
第1期 ^{※1} 実績 (R2~R5) 第2期 ^{※2} 計画値 (R6~R8)	7,109	6,987	7,477	7,442	8,872	8,597	8,628			
増減率 [%]	104%	100%	108%	106%	133%	129%	120%			

※1 第1期中期経営計画、 ※2 第2期中期経営計画

【特記事項】

令和2年度から令和5年度までの収益の実績は、概ね長期経営方針の計画どおりとなりました。また、令和6年度から令和8年度については、令和5年度に締結した非FIT水力発電所の電力供給契約に伴う収益などにより、長期経営方針の計画を上回る見込みです。

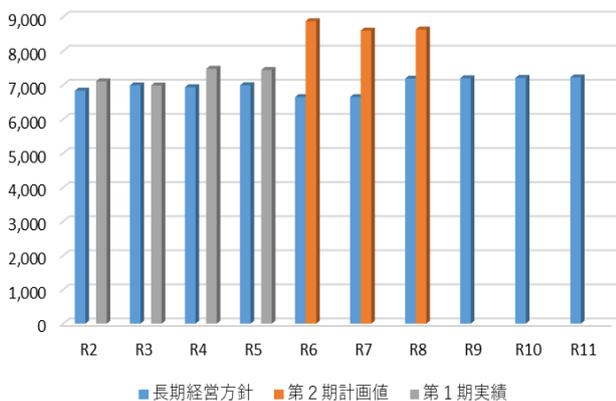
(2) 費用の推移

[単位：百万円]

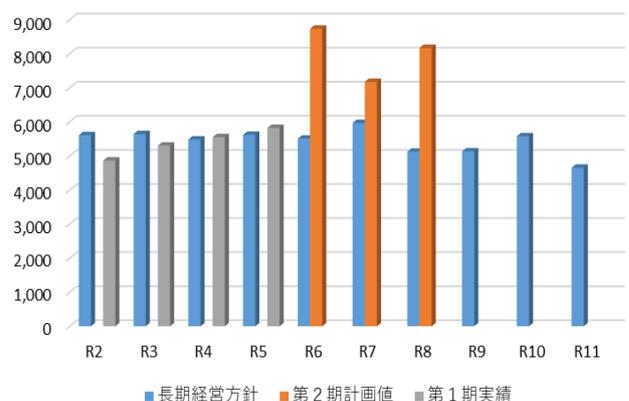
費用の推移	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
長期経営方針	5,609	5,641	5,482	5,619	5,508	5,967	5,125	5,135	5,576	4,654
第1期実績 (R2~R5) 第2期計画値 (R6~R8)	4,866	5,304	5,549	5,824	8,735	7,173	8,170			
増減率 [%]	87%	94%	101%	104%	159%	120%	159%			

【特記事項】

令和2年度から令和5年度までの費用の実績は、工事の実施年度の変更等があったものの概ね計画どおりの支出となりました。令和6年度から令和8年度は、物価高騰や労務単価の上昇に伴う修繕費の増加などにより、長期経営方針の計画を上回る見込みです。



収益の推移



費用の推移

2 工業用水道事業

(1) 収益の推移

[単位：百万円]

収益の推移	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
長期経営方針	829	921	985	1,033	1,142	1,279	1,456	1,668	1,749	1,762
第1期実績 (R2~R5) 第2期計画値 (R6~R8)	791	854	897	908	922	1,044	1,043			
増減率 [%]	95%	93%	91%	88%	81%	82%	72%			

【特記事項】

令和2年度から令和5年度までの収益の実績は、長期経営方針策定時の契約水量に至らなかったことなどにより、計画を下回りました。令和6年度から令和8年度においても、長期経営方針の計画を下回る見込みです。

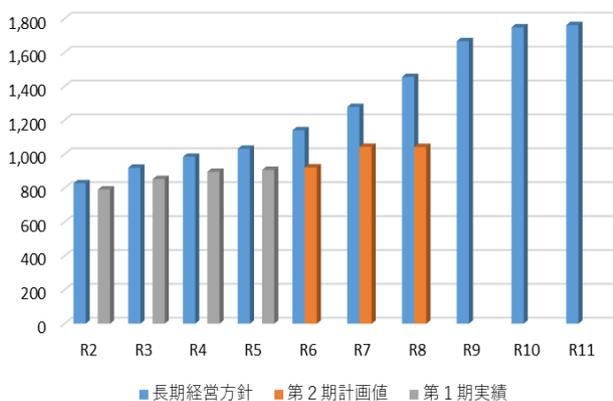
(2) 費用の推移

[単位：百万円]

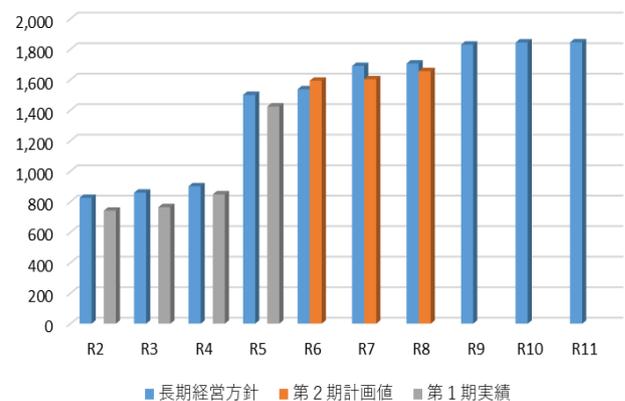
費用の推移	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
長期経営方針	825	859	901	1,500	1,537	1,690	1,706	1,830	1,844	1,845
第1期実績 (R2~R5) 第2期計画値 (R6~R8)	740	764	848	1,424	1,593	1,603	1,656			
増減率 [%]	90%	89%	94%	95%	104%	95%	97%			

【特記事項】

令和2年度から令和5年度までの費用の実績は、委託費や修繕費の削減などにより、計画より支出を抑えることができました。令和6年度から令和8年度においては、概ね長期経営方針の計画どおりとなる見込みです。



収益の推移



費用の推移